

2020/05/25(月)14:15

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:18

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、進路選択、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。	
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。	

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:19

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:20

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1648研究室		
連絡先電話番号	内線9836		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、講義は、コメントカードの意見や質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながらメーカーを中心としたマーケティングの理論と実際の企業活動を関連付けて解説いたします。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数(時間数)	2.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 戦略計画, 環境分析, 消費者・購買者分析, 競合分析, マーケティングのSTPとブランド戦略, コミュニケーション戦略, サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせることで理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「コメントカード」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点)成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は持ち込み無しの記述式で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』碩学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>受講する学生とは、社会の一員あるいは成人として接するつもりです。したがって、社会通念上のマナーやルールを示した上で、それを守ることを履修の最低条件とします。講義中の飲食、携帯電話・スマートフォン等の使用、私語雑談は厳禁です。指示に従わない者は学生証を提示の上、直ちに退室してもらいますので履修登録前に予め承知しておいてください。授業で配布されるレジュメは再発行しませんので、大切に綴じて保管してください。試験対策に有効です。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 この授業は、理論的な内容だけではなく、長年にわたってビジネスの世界で実務を行った経験をもつ教員が行います。したがって、実際のビジネスの現場で起こる課題に対してどのように対応すればいいのか、身近な事例を使って理解できるように構成されています。将来のキャリア設計にも生かせる内容となっています。</p> <p>【履修登録上の注意事項】 本科目は100名程度を定員としており、大幅に定員を超過して履修希望がある場合は、抽選による選抜の可能性がります。あらかじめご了承ください。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく	

第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	愛着があつてずっと使い続けている、購入し続けている商品(サービスを含む)一つ取り上げて、その理由を考えてみよう
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービスのマネジメント	TDRやUSJの魅力について考えてみよう
第15回	総集編	ノートやレジュメの見直し
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:21

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%、期末試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版, 2010 その他、必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>授業外での積極的な予習・復習に努めること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言語	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第8回	アルゴリズム	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。	

	順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。
第16回	期末試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:27

授業科目名	博物館概論		
担当教員氏名	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、収集、保存、学習支援、法規		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	博物館学芸員資格取得のための必修科目。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポート(20%)と期末試験(80%)によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	オノユウリ『美術館で働くということ』KADOKAWA/メディアファクトリー、倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院、木下史青『博物館へ行こう』岩波書店		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	学芸員資格を取得するための入口に当たる授業です。博物館について学ぶためには、まず博物館に行かなければ何も学べません。キャンパスメンバーズ制度を利用して、多くの博物館・美術館・資料館に行ってみてください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、公立博物館の開設・運営に関する実務経験を持つ教員が、博物館に関する基礎的な知識と、その専門職員である学芸員に求められる理論を実践的な事例にもとづいて指導する。		

授業計画	準備学習
第1回	博物館学芸員とは 博物館において学芸員はどのような仕事をしているのかを考えてみる。
第2回	博物館の歴史 現在のような博物館は、どのようにして形成されてきたのか、その歴史を考えてみる。
第3回	博物館の定義と種類 動物園や水族館も博物館に含まれる。なぜだろう。どのような共通点があるのか。考えをまとめておく。
第4回	博物館の目的と機能 博物館は何のために存在しているの、どのような役割を担っているのか、考えをまとめておく。
第5回	博物館の組織と職員 博物館を機能させるためにはそのような運営組織が必要か、考えをまとめておく。
第6回	博物館資料とその収集 魅力的な博物館のコレクションを形成するにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第7回	博物館資料の情報化 博物館と情報処理、どのような関係があるのか考えておく。
第8回	展示 自分の行ったことのある博物館でどのような展示が行われていたかを思い出してみる。
第9回	資料の保存 博物館資料はなぜ劣化するのか？それを防ぐためにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第10回	資料の取り扱い 博物館資料の取り扱いに際してどのような点に注意すべきか、考えをまとめておく。
第11回	学校教育と博物館 博物館は学校教育にどのような貢献ができるのか？考えをまとめておく。

第12回	生涯学習と博物館	教育と学習の違いについて考えをまとめておく。
第13回	地域社会とのコミュニケーション	博物館とそれが所在する地域とがどのような関係をもっているのか、考えをまとめておく。
第14回	博物館関連法規	博物館に関連する法律が果たす役割について考えておく。
第15回	空想展覧会	これまでの学習を踏まえ、自分が学芸員であったらどのような展覧会を企画・運営するのかをまとめておく。
第16回		
授業計画	博物館はなぜ存在するのか、そこではどのような事業が展開され、専門職員である学芸員はどのような役割を果たすのかを、新聞記事なども取り上げながら具体的に考察する。最終回の事業では、各自の学習成果を踏まえて、自分ならどのような展覧会や行事を企画するかを「空想展覧会」としてプレゼンテーションする。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:15

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:18

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、進路選択、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画			準備学習
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)		これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)		前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:19

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:20

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1648研究室		
連絡先電話番号	内線9836		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、講義は、コメントカードの意見や質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながらメーカーを中心としたマーケティングの理論と実際の企業活動を関連付けて解説いたします。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数(時間数)	2.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 戦略計画, 環境分析, 消費者・購買者分析, 競合分析, マーケティングのSTPとブランド戦略, コミュニケーション戦略, サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせて理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「コメントカード」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点)成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は持ち込み無しの記述式で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』硯学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>受講する学生とは、社会の一員あるいは成人として接するつもりです。したがって、社会通念上のマナーやルールを示した上で、それを守ることを履修の最低条件とします。講義中の飲食、携帯電話・スマートフォン等の使用、私語雑談は厳禁です。指示に従わない者は学生証を提示の上、直ちに退室してもらいますので履修登録前に予め承知しておいてください。授業で配布されるレジュメは再発行しませんので、大切に綴じて保管してください。試験対策に有効です。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 この授業は、理論的な内容だけではなく、長年にわたってビジネスの世界で実務を行った経験をもつ教員が行います。したがって、実際のビジネスの現場で起こる課題に対してどのように対応すればいいのか、身近な事例を使って理解できるように構成されています。将来のキャリア設計にも生かせる内容となっています。</p> <p>【履修登録上の注意事項】 本科目は100名程度を定員としており、大幅に定員を超過して履修希望がある場合は、抽選による選抜の可能性ががあります。あらかじめご了承ください。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく	

第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	愛着があつてずっと使い続けている、購入し続けている商品(サービスを含む)一つ取り上げて、その理由を考えてみよう
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービスのマネジメント	TDRやUSJの魅力について考えてみよう
第15回	総集編	ノートやレジュメの見直し
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:30

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%, 期末試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版, 2010 その他、必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>授業外での積極的な予習・復習に努めること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言語	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第8回	アルゴリズム	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。	

	順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。
第16回	期末試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:32

授業科目名	人的資源管理論		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(メールで事前に予約をすること)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	授業では、教科書を中心に、人的資源管理論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)		
キーワード	キャリア形成, 雇用管理, 目標管理制度, 専門職制度		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の主要な目標は、受講者が企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって、人的資源管理論に関する理解を深めることである。		
授業の内容	サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において、終身雇用制が大きく変貌するとともに、さまざまな雇用形態が登場し多様化している。講義では、このような経営組織の環境変化の中で、社員のキャリア形成と、経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。特に、社員のキャリア形成を達成すると同時に、新製品や新サービスの開発に必要な戦略的な人材を確保する、という視点から、社内公募制, 目標管理制度, 専門職制度, 教育研修制度, および、給与・賞与などの報酬制度を中心とする総合的な人事制度について、日本企業や外国企業の優れた事例を取り上げながら学習する。		
成績評価の方法	出席, 授業態度, 授業への参加度および課題発表50%, 期末試験50%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	a.教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社, 2003。		
参考文献	b.参考書 平野実『国際合併企業と知識創造』晃洋書房, 2007。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食, 携帯電話・スマートフォンの使用(携帯電話, スマートフォンは、かばん等にしまっておくこと), 私語雑談, 居眠り, 内職, 帽子の着用, 途中退室は厳禁する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 国内, 海外(ドイツ, 米国)において、採用や人材育成等の経験を有する教員が、企業の採用, 人材育成, 人事制度の構築, キャリア形成など「人のマネジメント」について実践的な授業を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	イントロダクション		
第2回	人的資源管理の生成		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第3回	雇用管理(1)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第4回	雇用管理(2)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第5回	雇用管理(3)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第6回	キャリア開発(1)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第7回	キャリア開発(2)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第8回	人事考課制度(1)		授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読し, 記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。

		ようにしておくこと。
第9回	人事考課制度(2)	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読し、記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第10回	人事考課制度(3)	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読し、記事の紹介・記事に対する自分の意見を発表できるようにしておくこと。
第11回	課題発表前グループ・ワーク	
第12回	課題発表1(学生によるグループ・プレゼンテーション)	
第13回	課題発表2(学生によるグループ・プレゼンテーション)	
第14回	課題発表3(学生によるグループ・プレゼンテーション)	
第15回	課題発表4(学生によるグループ・プレゼンテーション)	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:15

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:18

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、進路選択、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画			準備学習
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)		これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)		前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:19

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:20

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1648研究室		
連絡先電話番号	内線9836		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、講義は、コメントカードの意見や質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながらメーカーを中心としたマーケティングの理論と実際の企業活動を関連付けて解説いたします。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数(時間数)	2.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 戦略計画, 環境分析, 消費者・購買者分析, 競合分析, マーケティングのSTPとブランド戦略, コミュニケーション戦略, サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせて理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「コメントカード」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点)成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は持ち込み無しの記述式で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』硯学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>受講する学生とは、社会の一員あるいは成人として接するつもりです。したがって、社会通念上のマナーやルールを示した上で、それを守ることを履修の最低条件とします。講義中の飲食、携帯電話・スマートフォン等の使用、私語雑談は厳禁です。指示に従わない者は学生証を提示の上、直ちに退室してもらいますので履修登録前に予め承知しておいてください。授業で配布されるレジュメは再発行しませんので、大切に綴じて保管してください。試験対策に有効です。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 この授業は、理論的な内容だけではなく、長年にわたってビジネスの世界で実務を行った経験をもつ教員が行います。したがって、実際のビジネスの現場で起こる課題に対してどのように対応すればいいのか、身近な事例を使って理解できるように構成されています。将来のキャリア設計にも生かせる内容となっています。</p> <p>【履修登録上の注意事項】 本科目は100名程度を定員としており、大幅に定員を超過して履修希望がある場合は、抽選による選抜の可能性がります。あらかじめご了承ください。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく	

第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	愛着があつてずっと使い続けている、購入し続けている商品(サービスを含む)一つ取り上げて、その理由を考えてみよう
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービスのマネジメント	TDRやUSJの魅力について考えてみよう
第15回	総集編	ノートやレジュメの見直し
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:30

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%、期末試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版, 2010 その他、必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>授業外での積極的な予習・復習に努めること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言語	<p>前回講義の課題に取組み復習しておくこと。</p> <p>左記の事項について予習しておくこと。</p>	
第8回	アルゴリズム	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。	

	順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取り組み復習しておくこと。
第16回	期末試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:36

授業科目名	食品加工学 (Q3)		
担当教員氏名	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週コメントシートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品加工法, 食品の保存法, 加工食品の規格・表示		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	管理栄養士として必要となる食品加工の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。知識・技能の観点:(1)食品加工の目的について説明できる。(2)原料の食品加工特性や加工方法を説明できる。(3)食品の保存方法の原理について説明できる。(4)食品の規格・表示について説明できる。本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	食品加工の目的、意義、原理、農産食品の加工、水畜産食品の加工、畜産食品の加工、油脂およびその加工品、発酵食品の製造、食品貯蔵の原理、包装、加工食品の表示・規格について解説する。		
成績評価の方法	期末試験(40%)、中間試験(40%)、コメントシート、小テスト、レポート(20%)の結果に基づいて総合的に評価される。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。中間および期末試験は指定された試験日の授業時間(60分)内で実施する。		
テキスト	『食品加工貯蔵学 第2版』東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1605-4 <9784807916054>		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 【実務経験を活かした実践的な教育について】本授業は、公設の研究機関において、食品関係の中小企業を指導してきた教員がその経験を踏まえて、食品加工および保存の考え方について解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	授業のガイダンスをする。食品加工の目的、意義、原理について詳しく説明する。植物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習しておくこと。	
第2回	植物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。	
第3回	植物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。	
第4回	動物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。	
第5回	動物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。	
		授業の内容について、配布するワークシートを用いて	

第6回	動物性食品の加工について詳しく説明する。	予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第7回	動物性食品の加工について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第8回	中間試験。前半のまとめを行う。	前回までの内容をしっかり勉強しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第9回	油脂およびその加工品について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。
第10回	調味料、嗜好品について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第11回	貯蔵の劣化要因、貯蔵法各論について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第12回	貯蔵法各論について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第13回	包装、および表示、規格の意義と関連法規について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第14回	食品の規格について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第15回	食品の表示について詳しく説明する。	授業の内容について、配布するワークシートを用いて予習をしておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
第16回	期末試験。	前回までの内容をしっかり勉強しておくこと。前回の内容を復習し、わからないこと、授業の気づきなどをコメントシートに記入し提出する。
授業計画		
シラバス備考	16回目は期末試験の解説と通常の授業を行う。春休み期間中に希望者には工場見学を実施する。ワークシートは教学ポータルのお知らせ配信を通じてアップロードします。各自でプリントアウトしてください。状況に応じて、レポート課題を課すことがある。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:39

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	オンライン対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習10%、レポート課題40%、期末レポート50%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、3地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国)のいずれでも良いので、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション 目的と概要説明 「マツダ(株)の紹介」		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)	チームで活動する際に必要な要素について考えておく。	
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)	前回の資料を読み、振り返りをしておく。また、強み診断の課題に取り組む。	
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・講義「将来変化の紹介」 ・講義「海外主要市場の概要」 ・チーム編成	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(海外主要市場の概要)を読んでおく。	
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・講義「海外主要市場の概要」	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・実習「将来変化シナリオの作成」 -10年後を見据えた変化・進化(米国・欧州・中国) -働き方・暮らし方・クルマ文化	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・将来変化シナリオ発表 -数チームによる発表と講師コメント	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・講義「商品企画の基礎」 -商品企画の定義と概要 ・実習「ブレインストーミング」	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(商品企画の基礎)を読んでおく。	

	・成果発表	
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・講義「シナリオライティング」 ・各チーム担当市場決定 ・実習「コンセプトシナリオの作成」 - 中間発表用シナリオ案作成	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・実習「コンセプトシナリオの作成」(Cont.) - 中間発表用シナリオ最終化	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・中間発表 - 全チームのコンセプトシナリオ発表と講師講評 ・講義「モノ作り発想の限界」 ・講義「プレゼンテーション」 ・ガントチャートを使った計画立案	中間発表に向けて、チームで発表資料を完成させる。
第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・実習「最終プレゼンテーションの準備」 - プレゼンテーション資料作成 - プレゼンテーション原稿作成 - 想定質問への回答準備	中間発表での講師コメントを踏まえ、最終プレゼンテーション資料作成方針を決め、資料作成に取り組む。
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・実習「Distributor Meeting(前半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・実習「Distributor Meeting(後半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価 ・優秀チーム表彰と講師講評 ・講義「総まとめ」	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。(後半チーム)
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:40

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科、環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:41

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (庄原キャンパス主担当 藤井宣彰)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:42

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員, 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業およびアクティブラーニング形式。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある大学の教員, または, 関連する地域専門家, 行政担当者等による講義。さらに, 地域に関連したテーマでグループによる調査, レポートを課す予定である。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	地域資源開発学科, 生命環境学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の自然, 文化, 環境保全, 産業についての概要を説明できる。</p> <p>2.地域の課題について, その解決に向けて主体的に取組み, 地域の理解を図り, 自らの得た知識や課題について必要な技法(文献探索, 調査法, データ分析, PCによるプレゼンやレポート作成)を用いて説明ができる。</p> <p>カリキュラムとの関連は, 専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び, 実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は, 大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化, 食品, 環境保全に関する実践的な取り組みについて, 専門の本校教員および外部講師による講義を行う。なお, 外部講師の都合により, 日程および内容については変更の可能性がある。後半は, グループ毎に実際のフィールドに出て必要な技法をもちいて情報収集, 分析し, その結果をプレゼン等により発表する。		
成績評価の方法	原則として前半1-7回目の講義に関しては, 毎回簡単なレポートを講義時間内(20~30分程度)に作成し講義終了時に提出する(60%)。後半8-14回目のフィールド実践実習に関しては, 調査およびグループワークの内容に関するレポートおよびプレゼンテーションで学修の達成度を確認する(40%)。		
テキスト	教科書は定めない。講師によってはプリント資料を配付する。参考文献等は, 随時, 紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよび一部レポート提出をWeb上で行う場合があるため, 配信されるメール連絡は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している大学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に関連している専門家やその場所をグループで訪問調査し, プレゼンテーションを行うことで課題内容の理解を深める。これにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス(フィールド科学教育研究センター長) 庄原市 全体について(外部講師1) R2.9.30 1限	シラバス, コースカタログを熟読し, どのような科目なのかを理解して初回に臨むこと。	
第2回	庄原市 行政について(外部講師2) R2.9.30 2限	ホームページで, 庄原市についてみておくこと。	
第3回	庄原市の産業に関する内容(外部講師3) R2.10.7 1限	庄原市の産業に関わること(商工会議所, 他), インターネットなどで調べてくること。	
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介(外部講師4) R2.10.7 2限	産官学連携やスマート農業, 6次産業等について調べてくること。	

第5回	広島県の試験研究機関に関する内容(外部講師5) R2.10.14 1限	広島県の試験研究機関について調べてくること。
第6回	庄原(備北地域)の観光や自然環境に関する内容(外部講師6) R2.10.14 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原(備北地域)に関する内容。フィールド実践実習(グループワーク説明) R2.10.21 1限	これまでの講義を参考に庄原(備北地域)について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.21 2限	割り当てられた課題について調べてくること。
第9回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 1限	訪問先について調べてくること。
第10回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 2限	訪問先について調べてくること。
第11回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 1限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第12回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 2限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第13回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 1限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第14回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 2限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第15回	フィールド科学の総まとめ R2.11.18	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、以降の関連する実習や研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、また日程については年度途中で確定することになるので、上記の授業計画については変更となる場合がある。 詳細は1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:39

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	オンライン対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習10%、レポート課題40%、期末レポート50%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、3地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国)のいずれでも良いので、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション 目的と概要説明 「マツダ(株)の紹介」		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)	チームで活動する際に必要な要素について考えておく。	
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)	前回の資料を読み、振り返りをしておく。また、強み診断の課題に取り組む。	
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・講義「将来変化の紹介」 ・講義「海外主要市場の概要」 ・チーム編成	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(海外主要市場の概要)を読んでおく。	
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・講義「海外主要市場の概要」	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・実習「将来変化シナリオの作成」 -10年後を見据えた変化・進化(米国・欧州・中国) -働き方・暮らし方・クルマ文化	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・将来変化シナリオ発表 -数チームによる発表と講師コメント	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・講義「商品企画の基礎」 -商品企画の定義と概要 ・実習「ブレインストーミング」	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(商品企画の基礎)を読んでおく。	

	・成果発表	
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・講義「シナリオライティング」 ・各チーム担当市場決定 ・実習「コンセプトシナリオの作成」 - 中間発表用シナリオ案作成	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・実習「コンセプトシナリオの作成」(Cont.) - 中間発表用シナリオ最終化	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・中間発表 - 全チームのコンセプトシナリオ発表と講師講評 ・講義「モノ作り発想の限界」 ・講義「プレゼンテーション」 ・ガントチャートを使った計画立案	中間発表に向けて、チームで発表資料を完成させる。
第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・実習「最終プレゼンテーションの準備」 - プレゼンテーション資料作成 - プレゼンテーション原稿作成 - 想定質問への回答準備	中間発表での講師コメントを踏まえ、最終プレゼンテーション資料作成方針を決め、資料作成に取り組む。
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・実習「Distributor Meeting(前半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・実習「Distributor Meeting(後半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価 ・優秀チーム表彰と講師講評 ・講義「総まとめ」	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。(後半チーム)
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:40

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科、環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:41

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (庄原キャンパス主担当 藤井宣彰)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)14:42

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員, 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業およびアクティブラーニング形式。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある大学の教員, または, 関連する地域専門家, 行政担当者等による講義。さらに, 地域に関連したテーマでグループによる調査, レポートを課す予定である。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	地域資源開発学科, 生命環境学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の自然, 文化, 環境保全, 産業についての概要を説明できる。</p> <p>2.地域の課題について, その解決に向けて主体的に取組み, 地域の理解を図り, 自らの得た知識や課題について必要な技法(文献探索, 調査法, データ分析, PCによるプレゼンやレポート作成)を用いて説明ができる。</p> <p>カリキュラムとの関連は, 専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び, 実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は, 大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化, 食品, 環境保全に関する実践的な取り組みについて, 専門の大学教員および外部講師による講義を行う。なお, 外部講師の都合により, 日程および内容については変更の可能性がある。後半は, グループ毎に実際のフィールドに出て必要な技法をもちいて情報収集, 分析し, その結果をプレゼン等により発表する。		
成績評価の方法	原則として前半1-7回目の講義に関しては, 毎回簡単なレポートを講義時間内(20~30分程度)に作成し講義終了時に提出する(60%)。後半8-14回目のフィールド実践実習に関しては, 調査およびグループワークの内容に関するレポートおよびプレゼンテーションで学修の達成度を確認する(40%)。		
テキスト	教科書は定めない。講師によってはプリント資料を配付する。参考文献等は, 随時, 紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよび一部レポート提出をWeb上で行う場合があるため, 配信されるメール連絡は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している大学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に関連している専門家やその場所をグループで訪問調査し, プレゼンテーションを行うことで課題内容の理解を深める。これにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス(フィールド科学教育研究センター長) 庄原市 全体について(外部講師1) R2.9.30 1限	シラバス, コースカタログを熟読し, どういう科目なのかを理解して初回に臨むこと。	
第2回	庄原市 行政について(外部講師2) R2.9.30 2限	ホームページで, 庄原市についてみておくこと。	
第3回	庄原市の産業に関する内容(外部講師3) R2.10.7 1限	庄原市の産業に関わること(商工会議所, 他), インターネットなどで調べてくること。	
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介(外部講師4) R2.10.7 2限	産官学連携やスマート農業, 6次産業等について調べてくること。	

第5回	広島県の試験研究機関に関する内容(外部講師5) R2.10.14 1限	広島県の試験研究機関について調べてくること。
第6回	庄原(備北地域)の観光や自然環境に関する内容(外部講師6) R2.10.14 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原(備北地域)に関する内容。フィールド実践実習(グループワーク説明) R2.10.21 1限	これまでの講義を参考に庄原(備北地域)について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.21 2限	割り当てられた課題について調べてくること。
第9回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 1限	訪問先について調べてくること。
第10回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 2限	訪問先について調べてくること。
第11回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 1限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第12回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 2限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第13回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 1限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第14回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 2限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第15回	フィールド科学の総まとめ R2.11.18	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、以降の関連する実習や研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、また日程については年度途中で確定することになるので、上記の授業計画については変更となる場合がある。 詳細は1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:21

授業科目名	機能材料化学		
担当教員氏名	大竹 才人		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~ohtake/		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【26年度以降入学生】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科) ※29年度以降入学の環境科学科が対象		
キーワード	結晶構造, 電子構造, バンド理論, 波動関数, 強相関電子系, 半導体, 磁性体, 誘電体, 発光体		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	機能の発現には材料の電子物性が深く関わっており、固体中での電子の振る舞いの理解が機能材料を理解するための第一歩である。最近注目されている強相関電子系などはその代表であり、超伝導体に見られる金属-絶縁体転移や、磁界により電気抵抗が大きく変化する巨大磁気抵抗など多彩で魅惑的な物性は、電子が相互に強く関わり合いながら発現する。本講義では機能材料を理解するために、電子の振る舞いに基づいて初歩から解説し、その理解と修得を目標とする。		
授業の内容	機能材料として、電気的性質として半導体、磁気的性質として磁性体、光学的性質として発光体、扱う。またこれらの物性の起源として、それぞれの電子状態を学んでいく。更には、固体中での電子の振る舞いを電子の波動性に着目した波動関数に基づいて理解する。一方で電子の粒子としての振る舞いに着目して、スピン/電荷/軌道の3つの自由度の相互作用に基づいた強相関電子材料について学び、材料の多彩な機能を理解する。		
成績評価の方法	期末試験により評価する。適宜、小テストやレポートを課す場合もある。		
テキスト	なし		
参考文献	初学者向け: 量子化学 基礎からのアプローチ 真船文隆 化学同人 一般向け: 量子化学 上巻 原田義也 裳華房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	スマートフォン等の使用を禁止する。		

授業計画	準備学習
第1回 材料がもつ特徴的な機能は、組成や構造、電子状態などの要因が影響を与え合い発現される。その多様な性質は、化学の視点から観察することで系統的に理解することができる。具体的な機能材料を幾つか紹介し、その一端に触れることにする。	原子の電子配置について、周期表に基づいて理解しておくこと。
第2回 結晶構造を理解する基本として、4種類の単位格子に7種類の結晶系を適用した14種類のブラベー格子を学ぶ。	結晶構造、特にブラベー格子について予習しておくこと。
第3回 金属結晶とイオン結晶を学ぶ。1種類の元素の繰り返し構造である金属結晶と2種類の元素からなるイオン結晶について結晶構造を解説する。特にイオン結晶では、2種類のイオン半径比が陽イオンの配位数を決定して結晶構造を与えることを理解する。	金属結合又はイオン結合からなる物質の結晶系を予習しておくこと。
第4回 共有結合結晶としてダイヤモンド構造を学ぶ。またイオン結合性や共有結合性が見られるペロブスカイト構造を取り上げ、AサイトおよびBサイトの働きやそれらのイオン半径から導き出される許容因子、更にポーリングの法則についても解説する。	代表的な共有結合結晶について予習しておくこと。
第5回 固体の物性を理解するために、分子軌道法により固体の電子構造を定性的に学ぶ。このとき、エネルギーバンド図を用いた禁制帯幅を指標として金属・半導体・絶縁体の電気伝導特性を理解する。	分子軌道法について予習しておくこと。
定量的に理解するため、シュレディンガーの波動方程式を学ぶ。これは電子の振る舞いを定常波と捉え、ド・ブロイの式を用いて	

第6回	エネルギー保存則を利用し導出される。この解である波動関数が確率波を与え、絶対値の2乗が物理的意味を持つことを学ぶ。	シュレーディンガーの波動方程式について予習しておくこと。
第7回	最も単純化された一次元井戸型ポテンシャル中における電子の振る舞いを扱う。シュレーディンガーの波動方程式を解くことにより、波動関数から電子の確率密度と、固有値から量子化されたエネルギーを求め、量子化学の基礎を理解する	自由電子近似理論について予習しておくこと。
第8回	一次元系の内容に引き続き、三次元系に拡張した箱の中の自由電子近似モデルを取り上げる。このとき単位体積当たり、かつ単位エネルギー当たりのエネルギー状態数を状態密度と定義し、その状態密度関数を利用してフェルミ準位を求める。	状態密度関数について予習しておくこと。
第9回	バンド理論を学習する。E vs k プロットにより、固体の電子状態はバンド構造をとることを理解する。またフェルミ・ディラックの分布関数を解説し、状態密度関数を利用して電子密度を求める。	バンド理論及びフェルミ・ディラック分布関数を予習しておくこと。
第10回	真性半導体、p型半導体、n型半導体のエネルギーバンド図を解説して、それぞれの状態密度、フェルミ・ディラック分布から電子または正孔のキャリア密度を導出することで、半導体物性の理解を深める。	半導体中のキャリア密度分布について予習しておくこと。
第11回	電子遷移を伴う可視光領域の吸収と発光を学ぶ。半導体のバンドギャップは、おおよそ可視光領域のエネルギーに相当するため、励起による光吸収と、緩和による可視光の発光が可能となる。これらについて解説する。	光の透過と吸収、及び発光を予習しておくこと。
第12回	強相関電子系材料として第一遷移金属酸化物を取り上げ、強相関電子とモット絶縁体及び電荷ギャップについて解説する。	モット・ハバードモデルについて予習しておくこと。
第13回	強相関電子の波動性と粒子性は電子の局在(絶縁体)と非局在(金属)の相転移として現れる。この金属-絶縁体転移について、バンド幅制御及びフィリング制御を解説する。	モット転移について予習しておくこと。
第14回	強相関電子にはスピン・電荷・軌道の3つの自由度があり、これらの結合により多彩な電子相が競合して、突然巨大な応答を示す要因となっている。巨大磁気抵抗を例に挙げてこれらを解説する。	スピン・電荷・軌道の交差相関について予習しておくこと。
第15回	ペロブスカイト型マンガン酸化物は、伝導電子が局在スピンと軌道自由度に結合して多彩な電子相を作る。この様なスピンと軌道の結合や、軌道と電荷の結合について解説する。	ペロブスカイト酸化物における強相関電子系相転移として、CE型・A型・C型を予習しておくこと。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:29

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けてマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:30

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:31

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:32

授業科目名	チーム医療福祉論 Q2		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 林優子, 黒田寿美恵, 梅井凡子, 城本修, 永野なおみ		
研究室の場所	3404		
連絡先電話番号	0848-60-1236		
オフィスアワー	月曜日11:00~12:00		
E-mail/HP	yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数(時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学科必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について, 歴史, 学問体系, 役割, 機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して, チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチについて考える。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト	授業で指示する。		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ヘルスサポーターマインド
第2回	看護職の役割と機能
第3回	医師, 言語聴覚士の役割と機能
第4回	理学療法士, 作業療法士の役割と機能
第5回	ソーシャルワーカーの役割と機能
第6回	チームアプローチの実際
第7回	チームアプローチの実際
第8回	発表と試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	
シラバス備考	

URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:34

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義、小グループでの実習・ディスカッション、発表。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習、討論、学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社)2007		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場において実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ(G)での3事例の情報をしっかり読み込む12時前後に担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第5回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	事例検討発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第9回	倫理事例検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第10回	倫理的ディレンマ事例の検討チームにおける医師との関係	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第11回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第12回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法の打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第13回	倫理事例検討と中グループでの発表準備グループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	

第14回	中グループでの発表	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:35

授業科目名	基礎看護実習Ⅱ		
担当教員氏名	青井 聡美, 吉田 和美, 池田 ひろみ, 三宅 由希子, 辻川 季巳栄 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護, 看護過程, アセスメント(情報収集, 客観的情報, 主観的情報, 分析・解釈, 看護の必要性または看護上の問題), 計画立案(長期目標, 短期目標, 観察計画, 援助計画, 指導計画), 実施, 評価, 日常生活援助方法, 診療に伴う看護方法, 看護記録		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康障がいによって引き起こされる患者の反応を理解し、患者に必要な日常生活に関する看護援助を看護過程に沿って実施、評価することを学修する。成人看護学, 老年看護学, 小児看護学, 母性看護学, 地域看護学, 精神看護学の全ての看護活動の基盤となる授業と位置づけている。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康障がいをもつ患者の気持ちに寄り添い、援助的人間関係を築くよう関わることができる。 2.健康障がいをもつ患者の全体像を理解し、看護上の問題を明確にできる。 3.健康障がいをもつ患者の看護上の問題の解決に向けて看護計画を立案し、実施・評価できる。 4.看護計画に基づき、患者の状態に応じた看護援助を実践できる。 5.受持ち患者に実施した援助を情報共有し、看護チームの一員として協働できる。 6.受持ち患者の人格を尊重し、責任ある行動がとれる。 7.看護専門職として学修し続け成長していくために適切な姿勢・態度で行動できる。 		
成績評価の方法	目標への到達度(90%), レポート(10%)とする。		
テキスト	臨地実習要綱、基礎看護実習Ⅱ実習要綱		
参考文献			
備考(履修上のアドバース・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師経験のある教員が臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。 看護学概論, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論, ヘルスアセスメント, 看護理論と実践, 慢性期看護論, 急性期看護論で学習した内容を復習して実習に臨むこと。また, 実習日数が不足した場合は記録提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。		
授業計画	準備学習		
第1回	第1回オリエンテーション 臨地実習要綱, 基礎看護実習Ⅱ実習要綱にそって説明をする。	令和元年度入学生用 臨地実習要綱、令和2年度基礎看護実習Ⅱ実習要綱を持参すること	
第2回	バイタルサインチェック 日常生活援助技術練習	バイタルサインの測定方法について復習をして臨むこと。基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること	
第3回	日常生活援助技術練習	ヘルスアセスメントについて復習をして臨むこと。基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること	
第4回	第2回オリエンテーション 1.実習病院、病棟の説明 2.受持ち患者の紹介および情報提供 3.実技練習:検温の仕方と観察の仕方、報告の仕方 4.受持ち患者に必要なかつ関連する知識・技術の自己学習	基礎看護実習要綱を熟読し臨むこと。バイタルサインの計測方法について復習をして臨むこと。	
第5回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第6回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第7回	情報収集した内容を整理、アセスメントし、看護診断を導く。 看護診断毎に看護計画を立案する。	日常生活行動の情報を整理し臨むこと	
第8回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第9回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第10回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	

第11回	病院実習での学びを基礎看護実習Ⅱの目標に向けて振り返る。	実習ノートを完成させ臨むこと
第12回	学内まとめ	実習ノートを完成させ臨むこと
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	基礎看護実習Ⅱ実習要綱参照	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:36

授業科目名	保健医療福祉行政論		
担当教員氏名	安武 繁, 俵 志江		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室(安武), 3417研究室(俵)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>・安武が担当する授業では、このシラバスのほかに、「Unipa」を利用しますので、授業で勉強するときには、「Unipa」を確認してください。</p> <p>・安武が担当する授業では、この授業の形態としては、「講義資料型:講義資料を提供し学生に読んでもらう方法」で行います。いつでも、学生からの質問に対応します。授業では、このシラバスのほかに、本学の「Unipa」を利用することにより、質疑応答等や、課題レポートに関する指導などを行うことなどによって、できるだけ学生との双方向通信などができるよう、努めますので、よろしくお願いたします。</p> <p>・安武の担当分の授業では、課題レポートの提出で成績を評価します。「Unipa」を確認してください。</p> <p>・俵の担当分の授業は、「MoodleとUnipaによるオンライン授業」で行います。授業資料は前日にはMoodleまたはUnipaに載せる予定です。Moodleでの動画は授業日の授業時間に配信します。担当回では最初に小テストを実施しますので開始時間にはオンライン環境にしておきましょう。評価は、小テスト及びレポートとします。</p> <p>・成績評価は、安武の担当分が50%、俵の担当分が50%の予定。</p> <p>・俵の授業担当予定の日程予定は、「5月19日、6月2日、6月16日、6月30日、7月14日、7月28日」です。その他の日程(時間割表を参照してください)は、安武が担当する予定です。(このシラバスの「授業計画」の「第～回」と一致していない、「日程予定の月日」があるかも知れませんが、上記の日程予定の月日が担当教員の日程予定です。)</p> <p>学習の参考になるホームページの例として、東京都福祉保健局のホームページなどがあります。例として、性感染症であるエイズ予防について、https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/aids/index.htmlという、東京都福祉保健局のホームページがあります。参考にしてください。東京都福祉保健局のホームページでは、ほかにも、https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/index.htmlという、東京都福祉保健局のホームページ「医療・保健」があります。参考にしてください。私が担当する科目では、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、予防医学、保健政策論、医療福祉システム論、病態生理学(特に生活習慣病対策や感染症対策など)などの科目と関連した内容について、学習の参考にすることができます。参考にしてください。また、障害者福祉については、東京都福祉保健局のホームページhttps://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/smph/shougai/index.htmlという、東京都福祉保健局のホームページがあります。参考にしてください。ほかにも、厚生労働省のホームページ、都道府県や市町村などの公式ホームページ、信頼できるホームページなどを学習の参考にしてください。</p>		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 看護学科必修, 他の学科の必修・選択の別については確認してください。
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師, 保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	多職種連携 保健福祉行政 地方分権 健康日本21		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1 保健福祉行政の仕組みと課題について理解する。2 多職種連携による地域医療と保健福祉の連携システムについて理解する。3 在宅医療に必要とされる要件について学ぶ。		
授業の内容	1 地方分権の推進に伴う地域保健福祉の課題2 地域保健福祉行政3 多職種連携による在宅医療4 地域リハビリテーションの実践5 健康日本21の推進と保健福祉計画6 精神保健福祉と行政7 母子保健福祉と行政8 地域		

	医療と保健福祉との連携				
成績評価の方法	<p>・安武が担当する授業では、「課題レポート」の提出で、成績を評価します。「Unipa」を確認してください。 成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。 成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示す予定で、また、「課題レポート」の提出は、8月ごろを予定していますので、「Unipa」を確認してください。</p> <p>・安武の担当分の授業では、課題レポートの提出で成績を評価します。「Unipa」を確認してください。</p> <p>・依の担当分の評価は、小テスト及びレポートとします。 ・成績評価は、安武の担当分が50%、依の担当分が50%の予定。</p>				
テキスト	指定テキストは特にありません(予定)。				
参考文献	<p>・参考文献: 藤内修二他/標準保健師講座別巻1「保健医療福祉行政論第4版」, 医学書院<9784260027724> 野村陽子/最新保健学講座7「保健医療福祉行政論」<4839214777> 医療情報科学研究所編集:「公衆衛生がみえる 2020-2021」, メディックメディア, 2020発刊</p> <p>・担当教員の安武では、「保健所研修ノート」、医歯薬出版、安武繁(担当教員)著(2年生の時に使用したテキスト「保健所研修ノート」を持っている場合は、それを参考にしてください。</p>				
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>依の授業担当予定の日程予定は、 「5月19日, 6月2日, 6月16日, 6月30日, 7月14日, 7月28日」です。 その他の日程(時間割表を参照してください)は、安武が担当する予定です。 (このシラバスの「授業計画」の「第~回」と一致していない、「日程予定の月日」があるかも知れませんが、上記の日程予定の月日が担当教員の日程予定です。)</p> <p>学習の参考になるホームページの例として、東京都福祉保健局のホームページなどがあります。 例として、性感染症であるエイズ予防について、 https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/aids/index.html という、東京都福祉保健局のホームページがあります。参考にしてください。 東京都福祉保健局のホームページでは、ほかにも、 https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/index.html という、東京都福祉保健局のホームページ「医療・保健」があります。参考にしてください。 私が担当する科目では、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、予防医学、保健政策論、医療福祉システム論、病態生理学(特に生活習慣病対策や感染症対策など)などの科目と関連した内容について、学習の参考にすることができます。参考にしてください。 また、障害者福祉については、 東京都福祉保健局のホームページ https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/smph/shougai/index.html という、東京都福祉保健局のホームページがあります。参考にしてください。 ほかにも、厚生労働省のホームページ、都道府県や市町村などの公式ホームページ、信頼できるホームページなどを学習の参考にしてください。</p> <p>【担当教員の実務経験を活かした実践的な教育について】 担当教員は以前、広島県の保健所や福祉保健センターに勤務したことがあり、そこでは、地域の保健医療計画、市町村の健康日本21計画の作成、介護保険制度における地域包括ケアの企画研修、福祉行政、母子保健、精神保健福祉、学校保健、感染症対策など多くの分野における保健医療福祉活動の実務や企画などに指導助言を行った経験を生かし、本科目「保健医療福祉行政論」において実践的な教育を行う。</p> <p>今後、この科目では、さらに幅広い学習も必要です。そのため、今後、この科目の“標準的なテキスト”や、この科目で学習すべき内容全体を簡潔にまとめた“国家試験対策本(最新版)”なども活用して、この科目で学習すべき内容全体を学習してください。</p>				
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業計画</th> <th>準備学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <p>以下の内容について、勉強してください(安武が担当する授業では、授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示</p> </td> </tr> </tbody> </table>	授業計画	準備学習		<p>以下の内容について、勉強してください(安武が担当する授業では、授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示</p>
授業計画	準備学習				
	<p>以下の内容について、勉強してください(安武が担当する授業では、授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示</p>				

<p>第1回</p>	<p>保健福祉サービスの行政体系総論, 市町村および都道府県の役割, 福祉行政, 医療制度, 地域保健など (安武)</p>	<p>す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健法に基づき, 地域保健医療福祉における市町村の役割, 都道府県の役割について, 簡潔に説明しなさい。 ・難病対策における市町村の役割について, 簡潔に説明しなさい。 <p>厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。 図書「保健所研修ノート(医歯薬出版)」を持っている方は, この図書も参考にしてください。</p>
<p>第2回</p>	<p>保健医療福祉行政の変遷 保健医療福祉の財政 (俵)</p>	<p>周囲の環境と自分の健康について考えましょう。</p>
<p>第3回</p>	<p>学校保健行政 (安武)</p>	<p>以下の内容について, 勉強してください(安武が担当する授業では, 授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の課題は, このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので, このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して, 「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の内容は, 7月ごろに「Unipa」で示す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <p>あなたが重要であると考えられる学校保健の関連の保健事業(エイズ予防教育, 薬物乱用防止教育など)について, 地域保健医療福祉の従事者(医療機関などの助産師, 薬局薬剤師など)による技術支援(「出前講座」など)があればよいと考えるもの(学校保健と地域保健の連携になります)について, 学校保健の関連の保健事業の具体例(エイズ予防教育, 薬物乱用防止教育など)を1つあげて, あなたの考えを簡潔に説明しなさい(信頼できるホームページなどを参考にして勉強してください)。</p> <p>厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。 図書「保健所研修ノート(医歯薬出版)」を持っている方は, この図書も参考にしてください。</p>
<p>第4回</p>	<p>母子保健事業と地域支援活動 (俵)</p>	<p>2回目の授業の復習(小テスト対象)</p>
		<p>以下の内容について, 勉強してください(安武が担当する授業では, 授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の課題は, このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので, このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して, 「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の内容は, 7月ごろに「Unipa」で示す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <p>テーマ:新型コロナウイルス感染症(2019年)への対</p>

<p>第5回</p>	<p>感染症対策行政, 感染症法, 新型コロナウイルス感染症(2019年)への対応と行政 (安武)</p>	<p>応について 2020年2月に, 日本において, 新型コロナウイルス感染症を感染症法に基づく「指定感染症」として定める等の政令が施行された。 新型コロナウイルス感染症流行への対応について, 感染予防対策, 健康相談・健康観察, 診療・検査体制, 院内感染防止対策, 社会影響それぞれについて, 新型コロナウイルス感染症の発生当時から現時点まで, 簡潔に説明しなさい。 広島県の公式ホームページで, 「新型コロナウイルス感染症対策」について, 最新の内容を調べて学習してください。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。</p>
<p>第6回</p>	<p>成人保健事業 高齢者保健事業, 介護保険制度 (俵)</p>	<p>4回目の授業の復習(小テスト対象)</p>
<p>第7回</p>	<p>精神保健福祉行政 (安武)</p>	<p>以下の内容について, 勉強してください(安武が担当する授業では, 授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の課題は, このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので, このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して, 「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の内容は, 7月ごろに「Unipa」で示す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <p>精神障害者の方の就労を支援するための, 障害者総合支援法に基づくサービスについて, 簡潔に説明しなさい。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県・市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして勉強してください。図書「保健所研修ノート(医歯薬出版)」を持っている方は, この図書の第3章も参考にしてください。</p>
<p>第8回</p>	<p>障害者に関する保健福祉施策と地域支援体制 (俵)</p>	<p>6回目の授業の復習(小テスト対象)</p>
		<p>以下の内容について, 勉強してください(安武が担当する授業では, 授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の課題は, このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので, このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して, 「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の内容は, 7月ごろに「Unipa」で示す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <p>・市町村が糖尿病の合併症である腎症の予防事業を行うときに, あなたが重要であると考えた対策について, 市町村保健センターと医療機関との連携のあり方, 「減塩指導」のあり方など, あなたの考えを簡潔に説明しなさい。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。</p>

<p>第9回</p>	<p>連携, 地域包括医療, 在宅医療 (安武)</p>	<p>参考になるホームページの例として, 広島県の公式ホームページ「広島県保健医療計画(第7次)」があります。広島県の公式ホームページ「広島県保健医療計画(第7次)」などを参考にして勉強してください。 信頼できるホームページなどを参考にして勉強してください。</p> <p>・在宅医療, 地域包括医療, 関係機関の連携などにおける, 看護職員の役割について, 簡潔に説明しなさい。本学看護学科以外の学科の学生では, 自分の専門としようとする職種(リハビリテーション関係職種, 福祉専門職種など)の役割について, 簡潔に説明しなさい。</p> <p>参考になるホームページの例として, 広島県の公式ホームページ「広島県保健医療計画(第7次)」があります。広島県の公式ホームページ「広島県保健医療計画(第7次)」の「第2章 第3節 在宅医療と介護等の連携体制」などを参考にして勉強してください。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。</p>
<p>第10回</p>	<p>難病対策と地域ケアシステム (俵)</p>	<p>8回目の授業の復習(小テスト対象)</p>
<p>第11回</p>	<p>保健福祉計画, 母子保健行政など (安武)</p>	<p>以下の内容について, 勉強してください(安武が担当する授業では, 授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の課題は, このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので, このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して, 「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では, 成績評価のための「課題レポート」の内容は, 7月ごろに「Unipa」で示す予定で, また, 「課題レポート」の提出は, 8月ごろを予定していますので, 「Unipa」を確認してください。)</p> <p>・女性労働者の母性保護に関する法律と制度について学習します。 「労働基準法」, 「男女雇用機会均等法」, 「育児・介護休業法」が規定している主な制度(女性労働者の母性保護)について, 簡潔に説明しなさい。 厚生労働省の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして勉強してください。</p> <p>・次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画で示されている項目について, 簡潔に説明しなさい。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。 図書「保健所研修ノート(医歯薬出版)」を持っている方は, この図書も参考にしてください。</p> <p>・発達障害者支援法に基づく発達障害者支援センターの役割について, 簡潔に説明しなさい。 厚生労働省の公式ホームページ, 都道府県や市町村の公式ホームページ, 信頼できるホームページなどを参考にして, 勉強してください。</p>
<p>第12回</p>	<p>健康危機管理: 災害対策, 災害支援 (俵)</p>	<p>10回目の授業の復習(小テスト対象)</p>

<p>第13回</p>	<p>労働衛生行政(1) (安武)</p>	<p>以下の内容について、勉強してください(安武が担当する授業では、授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示す予定で、また、「課題レポート」の提出は、8月ごろを予定していますので、「Unipa」を確認してください。)</p> <p>厚生労働省の公式ホームページなどを参考にして、勉強してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」(2019年度)の概要について、簡潔に説明しなさい。 ・長時間労働(過重労働)による健康障害を防止するためには、事業者は労働者に対して、どのような対策が必要であると考えますか。あなたの考えを、簡潔に説明しなさい。
<p>第14回</p>	<p>労働衛生行政(2) (安武)</p>	<p>以下の内容について、勉強してください(安武が担当する授業では、授業のときに毎回レポートを提出する必要はありません。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の課題は、このシラバスの「準備学習」の欄で記した内容と同じものが多いので、このシラバスの「準備学習」で示した内容を勉強して、「課題レポート」の作成の準備を少しずつ行ってください。安武が担当する授業では、成績評価のための「課題レポート」の内容は、7月ごろに「Unipa」で示す予定で、また、「課題レポート」の提出は、8月ごろを予定していますので、「Unipa」を確認してください。)</p> <p>労働者が、がん、脳血管・心臓病など循環器の疾病、肝臓の疾病、腎臓の疾病など、長期の定期的な健康管理と治療を必要とする疾病を有する場合に、希望どおりに仕事を続けることができるために、事業者には、どのような配慮や対策などが必要であると考えますか。あなたの考えを、簡潔に説明しなさい。</p> <p>厚生労働省の公式ホームページ、信頼できるホームページなどを参考にして勉強してください。</p>
<p>第15回</p>	<p>・安武の担当分では、 まとめ、課題レポートの作成と提出。 俵 先生の担当分については俵 先生の指示に従ってください。</p>	<p>・安武の担当分では、 成績評価のための課題レポートを示します。課題レポートは、上記の「準備学習」で記した内容と同じものが多いです。 「Unipa」を確認してください。 俵 先生の担当分については俵 先生の指示に従ってください。 [安武の担当分の課題レポート]</p>
<p>第16回</p>		
<p>授業計画</p>	<p>俵 先生の授業担当予定の日程予定は、「5月19日、6月2日、6月16日、6月30日、7月14日、7月28日」です。 その他の日程(時間割表を参照してください)は、安武が担当する予定です。 (このシラバスの「授業計画」の「第～回」と一致していない、「日程予定の月日」があるかもわかりませんが、上記の日程予定の月日が担当教員の日程予定です。)</p>	
	<p>俵 先生の授業担当予定の日程予定は、「5月19日、6月2日、6月16日、6月30日、7月14日、7月28日」です。 その他の日程(時間割表を参照してください)は、安武が担当する予定です。 (このシラバスの「授業計画」の「第～回」と一致していない、「日程予定の月日」があるかもわかりませんが、上記の</p>	

シラバス備考	日程予定の月日が担当教員の日程予定です。) 今後、この科目では、さらに幅広い学習も必要です。そのため、今後、この科目の“標準的なテキスト”や、この科目で学習すべき内容全体を簡潔にまとめた“国家試験対策本(最新版)”なども活用して、この科目で学習すべき内容全体を学習してください。
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:29

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴァイバッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:30

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:31

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:32

授業科目名	チーム医療福祉論 Q2		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 林優子, 黒田寿美恵, 梅井凡子, 城本修, 永野なおみ		
研究室の場所	3404		
連絡先電話番号	0848-60-1236		
オフィスアワー	月曜日11:00~12:00		
E-mail/HP	yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数(時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学科必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について, 歴史, 学問体系, 役割, 機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して, チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチについて考える。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト	授業で指示する。		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ヘルスサポーターマインド
第2回	看護職の役割と機能
第3回	医師, 言語聴覚士の役割と機能
第4回	理学療法士, 作業療法士の役割と機能
第5回	ソーシャルワーカーの役割と機能
第6回	チームアプローチの実際
第7回	チームアプローチの実際
第8回	発表と試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:34

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義、小グループでの実習・ディスカッション、発表。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習、討論、学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社)2007		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場において実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ(G)での3事例の情報をしっかり読み込む12時前後に担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第5回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	事例検討発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第9回	倫理事例検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第10回	倫理的ディレンマ事例の検討チームにおける医師との関係	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第11回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第12回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法の打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第13回	倫理事例検討と中グループでの発表準備グループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	

第14回	中グループでの発表	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:39

授業科目名	基礎臨床実習 I		
担当教員氏名	梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 佐藤勇太, 高宮尚美		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	面談はともに要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		
授業の内容	実習施設にて2週間, 実習指導者の下で実習をする。 以下の内容を実習目標とする。 1)実習施設の概要を理解する。2)他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3)処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4)情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5)実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)		
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:40

授業科目名	基礎臨床実習Ⅱ		
担当教員氏名	梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 佐藤勇太, 高宮尚美		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談はともに要予約。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。		
単位数(時間数)	4.0	180	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、とくに理学療法評価に関する実習を行います。学内での講義や実技実習で学んだ各種の評価手技を対象の方(患者)に適用する場合の注意点や反応の実際について学びます。		
授業の内容	基礎臨床実習Ⅱの実習は、同一の臨床実習施設において4週間行われます。その内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の対象の方(患者)に対して理学療法評価を行い、その結果の解釈・統合・検証、さらに治療計画の立案までを経験するものです。学内においては実習前オリエンテーションを、実習終了後には報告会を行い、次の総合臨床実習に繋げていきます。		
成績評価の方法	出席と実習指導者による報告書、および実習中に評価を行った症例のケース・レポート等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は、評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院) ※(購入済み)		
参考文献	実習地で担当した症例に応じ、各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外臨床実習施設において理学療法士としての実務経験が5年以上である臨床実習指導者の下で理学療法業務を経験する。基礎臨床実習Ⅱにおいては理学療法プロセスにおける検査測定を中心とした実際の理学療法を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、特に理学療法評価に関する実習を行う。学内の講義・実習で学んだ各種の評価手技を患者に適用する場合の注意点や患者の反応の実際について学ぶ。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:41

授業科目名	地域臨床実習		
担当教員氏名	古山 千佳子, 池内 克馬		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週月曜日13時～15時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	学外に配置された実習地にて10日間の実習を行う		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域作業療法の実践, 面接・観察, カナダ作業遂行測定(COPM), 作業遂行分析, コミュニケーション技術, 多職種連携, 協働, ヘルスサポーターマインド, プレイバックシアター		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この実習では, クライアントとの協働および多職種との連携を経験しながら, クライアントにとって重要な作業ができるようになるために共に取り組むという作業療法の役割と, 保健・医療従事者としての基本的なルールを体得する。到達目標は, 「クライアントと共に作業遂行上の問題(クライアントにとって重要な作業)を特定できること。そして, 作業遂行観察やその他の情報(評価結果等)に基づいて, 作業療法計画の立案ができること」である。		
授業の内容	次の1～10の課題を実施する。1.実習ガイダンスに参加する, 2.クライアントとのパートナーシップによって作業遂行上の問題を特定するために, クライアントへのインタビュー(可能であればカナダ作業遂行測定:COPM)を見学したり, 体験したりする, 3.クライアントにとって意味のある作業や生活に関連のある作業を観察し, 作業遂行分析を行う, 4.必要に応じてADL/IADLや作業遂行要素の検査, 環境評価等を見学または体験する, 5. 作業療法計画を立案する, 6.指導者の補助, 集団療法, クライアントの送迎等を見学または体験する, 7.体験したことを実習日誌等に記録する, 8. 実習日誌や課題等をまとめて実習記録(ポートフォリオ等)を作成する, 9.事例報告(1事例)を作成し, 実習セミナーで発表する, 10.プレイバックシアターワークショップに参加し, 実習での経験を振り返る。		
成績評価の方法	実習への参加態度(50%), 提出物(ポートフォリオ等)(30%), 事例報告(まとめ+発表)(20%)を総合して判断する。		
テキスト	Law M., Baptiste S., Carswell A. et al著, 吉川ひろみ訳『COPMカナダ作業遂行測定第4版』(大学教育出版), 1998.		
参考文献	エリザベス・タウンゼント, ヘレン・ポラタイコ著, 吉川ひろみ・吉野英子監訳『続・作業療法の視点-作業を通しての健康と公正』(大学教育出版), 2011.		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	実習開始のガイダンスおよび実習終了後のセミナーには, 必ず参加する。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			

授業計画	2020年8月17日(月)～9月11日(金)のうち10日間, 指定施設において実習指導者の指導のもと, 実習を行う。実習終了後, 1事例の事例報告を作成し実習セミナーにおいて発表する。さらに, プレイバックシアターワークショップに参加し, 実習での経験を振り返る。実習中の記録物(ポートフォリオ等)を提出する。
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:29

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けてマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:30

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:31

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)～9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:32

授業科目名	チーム医療福祉論 Q2		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 林優子, 黒田寿美恵, 梅井凡子, 城本修, 永野なおみ		
研究室の場所	3404		
連絡先電話番号	0848-60-1236		
オフィスアワー	月曜日11:00~12:00		
E-mail/HP	yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数(時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学科必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について, 歴史, 学問体系, 役割, 機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して, チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチについて考える。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト	授業で指示する。		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ヘルスサポーターマインド
第2回	看護職の役割と機能
第3回	医師, 言語聴覚士の役割と機能
第4回	理学療法士, 作業療法士の役割と機能
第5回	ソーシャルワーカーの役割と機能
第6回	チームアプローチの実際
第7回	チームアプローチの実際
第8回	発表と試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:34

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義、小グループでの実習・ディスカッション、発表。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習、討論、学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社)2007		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場において実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ(G)での3事例の情報をしっかり読み込む12時前後に担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第5回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	事例検討発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第9回	倫理事例検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第10回	倫理的ディレンマ事例の検討チームにおける医師との関係	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第11回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第12回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法の打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第13回	倫理事例検討と中グループでの発表準備グループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	

第14回	中グループでの発表	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:42

授業科目名	総合臨床実習 I (作業)		
担当教員氏名	小池好久, 吉岡和哉, 久野真矢, 織田靖史, 西田征治, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 坂本千晶, 池内克馬		
研究室の場所	小池:2506研究室, 吉岡:2508研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨床実習施設における実習。作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う。実習終了後、学内において事例報告書作成および発表。		
単位数(時間数)	9.0	405	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 診療(作業療法)参加型実習, 作業療法評価, 作業療法計画立案, 作業療法介入, 事例報告		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目的】 総合臨床実習では、評価により収集した情報から適切な作業療法計画を立案し、実施した結果を再評価によって確認するという作業療法過程を経験し、クライアントを中心としたチームアプローチの中で作業療法士の役割を理解することを目的とする。</p> <p>【一般目標】 臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈するクライアントに対して、以下のことができるようになることを一般目標とする。 1.作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 2.許容される臨床技能を実践できる。 3.臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程(クリニカルリーズニング)を説明し、作業療法の計画立案ができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の臨床実習指導者のもとで診療(作業療法)参加型実習形態に基づいて実践的教育を行う。また、科目担当教員も作業療法士としての実務経験が5年以上であり、臨床実習指導者と連携する。実習終了後は事例報告書作成および発表に関して実践的教育を行う。</p>		
授業の内容	医療機関等に身を置き、診療(作業療法)参加型実習に基づいた臨床実習指導者の指導のもとでクライアントに接し、学内で学んだ作業療法理論に関する知識と技能および態度を身につける。実習終了後、学内において事例報告書を作成し、実習セミナーにおいて発表する。		
成績評価の方法	総合臨床実習報告書, 臨床実習録(デイリーノート), 事例報告書(または経験報告書), 自己学習ポートフォリオ, 実習セミナーにおける出席・報告, その他の提出課題に対して総合的に評価する。		
テキスト	・県立広島大学保健福祉学部作業療法学科:総合臨床実習の手引き。2020。 ・吉川ひろみ, 齋藤さわ子:作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院, 2014。		
参考文献	・日本作業療法士協会:作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018)。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要です。 実習中は守秘義務を遵守してください。また、自己の健康管理に十分に配慮することも必要となります。 何かあった場合には、施設担当教員または科目担当教員に連絡を取ってください。 ※実習の専門領域は1期2期で合わせて検討し配置決めをしている。		
授業計画	準備学習		
第1回	実習ガイダンス(学内)	3年次までに学習した専門基礎科目, 専門科目の復習を行っておくこと。	
第2回	第1週:作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと。	
第3回	第2週:作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと。	
第4回	第3週:作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことを	

	ぶ(学外:臨床実習施設)	デイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第5回	第4週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第6回	第5週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第7回	第6週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第8回	第7週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第9回	第8週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第10回	第9週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第11回	施設担当教員の指導のもと事例報告書(レジュメ)を作成する(学内)	実習を通して経過を追うことができた事例を選択し, デイリーノート, ポートフォリオから事例の情報をまとめておくこと. また, 実習の手引きに掲載されている事例報告書作成指針やサンプルを読んでおくこと.
第12回	パワーポイント使用・口述発表による事例報告を行う(学内:実習後セミナー)	事例発表に関する規定を順守してパワーポイントや口述発表の準備を行っていくこと.
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	臨床実習施設における実施期間:9週間 ※実習前のオリエンテーションやガイダンス, 実習後のセミナー発表等は, 本科目に含まれる内容であるので, 必ず出席すること. ※実習期間中は, 実習施設の勤務体系に合わせた臨床実習を行う.	
シラバス備考		
URLリンク1	日本作業療法士協会: 作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018) < http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2013/12/shishin-tebiki20181.pdf >	
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:29

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けてマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:30

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:31

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)～9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:32

授業科目名	チーム医療福祉論 Q2		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 林優子, 黒田寿美恵, 梅井凡子, 城本修, 永野なおみ		
研究室の場所	3404		
連絡先電話番号	0848-60-1236		
オフィスアワー	月曜日11:00~12:00		
E-mail/HP	yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数(時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学科必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について, 歴史, 学問体系, 役割, 機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して, チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチについて考える。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト	授業で指示する。		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ヘルスサポーターマインド
第2回	看護職の役割と機能
第3回	医師, 言語聴覚士の役割と機能
第4回	理学療法士, 作業療法士の役割と機能
第5回	ソーシャルワーカーの役割と機能
第6回	チームアプローチの実際
第7回	チームアプローチの実際
第8回	発表と試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	
シラバス備考	

URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:34

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義、小グループでの実習・ディスカッション、発表。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習、討論、学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社)2007		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場において実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ(G)での3事例の情報をしっかり読み込む12時前後に担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第5回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	事例検討発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第9回	倫理事例検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第10回	倫理的ディレンマ事例の検討チームにおける医師との関係	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第11回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第12回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法の打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第13回	倫理事例検討と中グループでの発表準備グループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	

第14回	中グループでの発表	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:46

授業科目名	臨床実習Ⅲ		
担当教員氏名	城本 修 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	4.0	160	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、コミュニケーション障害に対する臨床の実際の流れを学ぶ。すなわち、特定の実習協力患者を一定期間担当し、そのコミュニケーション障害の評価・診断、指導目標の設定、訓練計画の立案と日々の指導プログラムの実施と改良、指導記録の作成といった一連の作業、さらに関連職種との連携やチーム・アプローチの実際を通して、言語聴覚士としての具体的な臨床業務を学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が担当中のケースを対象とした臨床実習(見学、検査、評価、訓練計画立案、訓練実施)を計画し、言語聴覚療法の実際について学修する。		
授業計画	準備学習		
第1回	事前に開催する臨床実習オリエンテーションにおいて、実習に対する心構え、見学に必要な機器の操作方法、準備学修内容について説明する。		
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
	臨床実習に関する資料を配布し、講義および演習によるオリエンテーションを行ったうえで、学内実習、学外実習を		

授業計画	実施する。コミュニケーション障害学科「臨床実習の手引き」参照。 準備学習については、各実習指導者の指示を仰ぐこと。
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:29

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けてマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:30

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:31

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:32

授業科目名	チーム医療福祉論 Q2		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 林優子, 黒田寿美恵, 梅井凡子, 城本修, 永野なおみ		
研究室の場所	3404		
連絡先電話番号	0848-60-1236		
オフィスアワー	月曜日11:00~12:00		
E-mail/HP	yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数(時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学科必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について, 歴史, 学問体系, 役割, 機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して, チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチについて考える。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト	授業で指示する。		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ヘルスサポーターマインド
第2回	看護職の役割と機能
第3回	医師, 言語聴覚士の役割と機能
第4回	理学療法士, 作業療法士の役割と機能
第5回	ソーシャルワーカーの役割と機能
第6回	チームアプローチの実際
第7回	チームアプローチの実際
第8回	発表と試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:34

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義、小グループでの実習・ディスカッション、発表。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習、討論、学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠、吉川ひろみ、岡本珠代、古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社)2007		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場において実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ(G)での3事例の情報をしっかり読み込む12時前後に担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備	
第5回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	事例検討発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第9回	倫理事例検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第10回	倫理的ディレンマ事例の検討チームにおける医師との関係	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第11回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第12回	倫理事例検討の続き発表資料作成と発表方法の打合せグループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	
第13回	倫理事例検討と中グループでの発表準備グループにより、当事者からサービスの受けた経験を聞く場合がある。	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。	

第14回	中グループでの発表	学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:54

授業科目名	社会福祉実習指導 I Q3・Q4		
担当教員氏名	手島 洋、李 宣英、伊藤 泰三、國定 美香、志賀 信夫、住居 広士、田中 聡子、永野 なおみ、松宮 透高、湯川 順子、横須賀 俊司、吉田 倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	事前に予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程に従い、実践的な技術等を指導する。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、社会福祉実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業は、2年次以降の社会福祉実習に向けての導入的位置づけにある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉実習の意義について理解し、説明できる。 2. 社会福祉実習に係る個別指導及び集団指導を通して、相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際に理解し、説明できる。 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解し、社会福祉実習に向けての目標や課題を表現できる。 <p>カリキュラム上の位置づけ: 専門領域特有の科目(社会福祉士専門科目群)</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉実習の意義・目的 (2) 高齢者・障害者の現状と課題 (3) 利用者理解(ビーチボールバレー交流会も含む) (4) 2年生の実習報告会への参加 (5) 2年生の実習に向けた個人面談 (6) ソーシャルワーカーの倫理 (7) 実習領域事前学習 		
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度 80% 授業時に掲示する課題 20% これらを総合的に評価する。		
テキスト	* 相談援助実習研究会編「はじめての相談援助実習」ミネルヴァ書房		
参考文献	適宜授業内で紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	無断欠席禁止。 また、課題の提出期限厳守。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション 社会福祉実習の意義・目的	テキストの該当箇所を読む
第2回 障害者福祉サービスの利用者の特徴	テキストの該当箇所を読む
第3回 ゲスト講師「障害者家族の暮らしと想いを聴く」	障害者家族について調べる
第4回 高齢者福祉サービスの利用者の特徴	テキストの該当箇所を読む
第5回 ゲスト講義「認知症高齢者の家族介護者の想いを聴く」	認知症高齢者の家族介護者について調べる
第6回 利用者理解(1)	第2回から第4回の学習の復習をしておく
第7回 利用者理解(2) ビーチボールバレー交流事業(1)	第2回から第4回の学習の復習をしておく
第8回 利用者理解(3) ビーチボールバレー交流事業の参加 レポート試験	第2回から第4回の学習の復習をしておく
第9回 ビーチボールバレー交流事業の振り返り	ビーチボールバレー交流事業の学びを確認しておく
第10回 2年生の実習報告会への参加(1)	社会福祉実習の手引きを読んでおく

第11回	2年生の実習報告会への参加(2)	社会福祉実習の手引きを読んでおく
第12回	2年生の実習に向けた個人面談	個人面談調査票を記入しておく
第13回	ソーシャルワーカーに求められる倫理について	テキストの該当箇所を読む
第14回	実習先施設領域事前学習(1)	実習領域の概要について調べておく
第15回	実習先施設領域事前学習(2)	ワークシートを作成する
第16回	実習先施設領域事前学習(3)	ワークシートの見直しをする
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)15:55

授業科目名	精神保健福祉現場実習指導 I		
担当教員氏名	澤田千恵・江本純子・越智あゆみ・金子努・大下由美・細羽竜也・勝見吉彰・吉田倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問や学修相談については、可能な限りいつでも対応します。事前にメール等で日時の予約をしてください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	履修学生を2つのグループに分け(1クラス20人以下)、対面授業およびグループ討議。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、精神科病院、地域移行支援、地域生活支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この授業では、履修学生の到達目標を以下のように設定する。</p> <p>≪知識・技能の観点≫</p> <p>①精神保健福祉現場実習の意義について説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士という国家資格が社会的に要請された背景やその職域について説明できる。</p> <p>≪思考・判断・表現の観点≫</p> <p>①精神障害者の置かれている現状や、その生活の実態や生活上の困難について、歴史的な背景をふまえて説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士が精神障害者の相談・支援や社会的復権に果たす役割について説明できる。</p> <p>≪主体性・協働性の観点≫</p> <p>①準備学習を行い、調べた内容についてまとめ、授業時にわかりやすく説明できる。</p> <p>②グループワークにおいて、時間配分に気を配りながら、参加者全員の発言に耳を傾け、グループの意見をまとめることができる。</p> <p>≪カリキュラム上の位置づけ≫</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉現場実習 I・II および精神保健福祉現場実習指導 II・III を履修するためには、精神保健福祉現場実習指導 I を履修しなければならない。</p>		
授業の内容	この授業では、精神保健福祉士が要請されてきた社会的・歴史的背景について学ぶ。そして、精神保健福祉士が果たすべき役割や必要とされる職域について理解する。また、現場実習に必要な知識やマナーを身につけ、現場実習に臨むための基礎力を培い、実習への動機づけを高める。		
成績評価の方法	<p>受講条件：夏休みの課題を提出期限厳守で提出すること。 成績</p> <p>評価の方法：毎回のリアクション・ペーパーへの記入(2点×15回=30点満点)。授業内容をしっかりふまえた感想や質問であるかどうかで0~2点の評価を毎回行う。授業時に提示する課題(15点×3課題=45点満点)、期末試験(25点満点)で総合的に評価する。授業時の課題に関しては提出期限を過ぎた場合は減点対象とする。やむをえない事情がある場合のみ、提出期限の1週間後までは受け取る。</p>		
テキスト	使用しない。資料を配布する。		
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉現場実習の手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。 授業内容と関係ない私語は禁止します。		

授業計画	準備学習	
第1回	精神保健福祉現場実習で学ぶこと(実習指導の意義)+精神保健福祉士とは(精神保健福祉士の業務紹介) ※クラス分けの提示。 担当教員:江本・澤田	精神保健福祉士には、どのような役割と機能を期待されているのかについて考えてくる。
第2回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解(事例学習) 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む) 担当教員:江本	日本精神保健福祉士協会倫理綱領(実習の手引き)をよく読んでおくこと。

第3回	精神保健福祉士はなぜ必要か(精神保健医療福祉の現状:精神科病院とは、制度変革とPSW) 社会的入院に関する映像の視聴 担当教員:澤田	以下の記事をインターネットでダウンロードして読み、大学ポータルサイトの『課題』から感想レポートを期限内に提出する。 ハートネットTV「60歳からの青春 —精神科病院40年をへて—」(2014年6月10日放送)の番組まるごとテキスト https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/4/
第4回	自己覚知はなぜ必要か(利用者のニーズを理解し、業務を実践するためのツール) 担当教員:勝見	事前配布資料を読み、自己覚知の必要性について自分なりの考えをまとめ、口頭で報告できるよう準備しておくこと
第5回	精神科医療機関における記録の方法とその留意点を学習したうえで、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を図る。 担当教員:金子	事前に配布された模擬実習記録をもとに課題レポートを提出する。
第6回	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割(現場のPSWの講義) 講師:医療法人社団 はっぴねす メディカルカウンセリングルーム 本田クリニック 精神保健福祉士 桑原陽子さん 担当教員:越智	外部講師が所属する医療機関のホームページを見て、どのような特徴を有しているか(例:診療科目、場所、併設施設・事業所など)を確認しておくこと。
第7回	実習指導者や他職種の援助者との円滑な実践的態度(学ぶ姿勢) 担当:江本	事前配布資料を読むこと。
第8回	地域で生活する当事者をお招きし、精神障害の当事者が地域で生活するうえでの苦労や楽しみ、生活の工夫や必要な支援などについて考える。 担当:澤田	外部講師が所属する事業所のホームページを見て、どのような事業を行っているか(例:法人の理念および運営している事業所の種類や特徴、地域とのつながりなど)を確認しておくこと。
第9回	精神保健福祉援助実習報告会への参加(3・4年生の実習報告を聞き、現場実習の実際を知り、実習に向けての意識を高める) 担当教員全員	①実習に対する問題意識を深める重要な学びの機会であるという心構えを持つ。②積極的に質問すること。関心を持ったところやわからなかったところをメモしながら聞くことを心掛ける。
第10回	実習中のマナー(メール・お礼状の書き方、電話のかけ方) 担当教員:澤田・江本	①現場実習のお礼状の書き方について、社会福祉の実習の授業で学んだことを復習する。その時の課題を持参すること。②模擬課題に取り組んでもらうので、各自、お礼状を書くための便箋と封筒を持参する。
第11回	現場実習オリエンテーション+見学実習・グループ発表の説明と準備 担当教員 実習オリエンテーション:金子・越智 見学実習・グループ発表:大下・江本・澤田	第1回授業時に配布している過去の実習報告書を読んでおくこと。
第12回	実習ロールプレイ 担当:大下	初対面でのコミュニケーション過程で、自分が選択しやすい行動(緊張して顔が強張る、立ちすくんでしまうなど)について考察してくる。また、普段自分が使用している「非言語メッセージ」(表情、声の抑揚、高さ、大きさ、態度、立ち居振る舞いなど)について考察してくる。
第13回	精神実習の流れ(個別面談、三者協議、事前学習等)の説明+質疑応答(前半30分 越智) 実習記録の課題の振り返り(後半60分 金子)	12回目の授業時に返却した「実習記録の課題」の添削結果を確認し、当日持参すること。
第14回	外部講師 桑原陽子さん による講義の振り返り 担当教員:越智	外部講師による講義時の配布資料を読み直しておくこと。
第15回	外部講師による講義の振り返り 担当教員:澤田	外部講師による講義時の配布資料を読み直しておくこと。
第16回	期末試験	

授業計画	
シラバス備考	外部講師をお招きする講義については、日程調整の必要があるため、講義の順番が変更される場合がある。
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)15:55

授業科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		
担当教員氏名	松宮 透高、李 宣英、伊藤 泰三、國定 美香、志賀 信夫、住居 広士、田中 聡子、手島 洋、永野 なおみ、湯川 順子、横須賀 俊司、吉田 倫子		
研究室の場所	学生便覧参照(社会福祉実習担当教員)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	事前予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程に従い、実践的な技術等を指導する		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象、社会福祉実習指導Ⅰの単位を修得していること		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、社会福祉実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業は社会福祉実習(職場及び職種の理解を深める配属実習)の事前事後学習を通して、実践的な技術や知識を体得するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識や技術について具体的かつ实际的に理解し、表現できる。 2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について理解し、表現できる。 3. 実習前から実習後までの一連の学習を通して、社会福祉実習で得た体験を振り返り、専門的知識及び技術として体系立てて理解し、表現できる。 <p>カリキュラム上の位置づけ: 専門領域特有の科目(社会福祉士専門科目群)</p>		
授業の内容	<p>①社会福祉実習の目的と意義②社会福祉の対象者とその課題のとらえ方(利用者理解)③社会福祉施設・機関の種類と内容④社会福祉専門職の種類と業務内容⑤実習生名票の作成、実習計画の作成⑥社会福祉専門職の倫理、個人のプライバシー保護と守秘義務・事前訪問の留意点⑦実習記録の方法⑧相談援助実習において、社会人としてのマナーと利用者に対する接遇⑨実習の振り返り⑩実習報告書の作成⑪実習報告会でプレゼンテーション⑫3年生の実習報告会への参加。</p>		
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度20%、授業時に提示する課題40%、定期試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	相談援助実習研究会編「はじめての相談援助実習」ミネルヴァ書房 県立広島大学「社会福祉実習の手引き」		
参考文献	「社会福祉実習の手引き」に示す参考文献 その他、実習領域ごとに必要な基礎文献を担当教員より紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	本科目は「社会福祉実習Ⅰ」に連動するものであり、前期末に中間試験を実施する。 無断欠席禁止。また、課題の提出期限厳守。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション 社会福祉実習Ⅰの意義・目的	テキストの該当箇所を読む
第2回 実習分野・利用者の理解(1)	テキストの該当箇所を読む
第3回 実習分野・利用者の理解(2)	実習分野や利用者について調べ、ワークシートを作成する
第4回 実習生名票の作成	テキストの該当箇所を読む 実習生名票を作成する
第5回 実習計画の作成(1)	テキストの該当箇所を読む 実習計画書を作成する
第6回 実習計画の作成(2)	発表資料を作成し、発表の準備をする
プライバシー保護と守秘義務・事前訪問の留意点	テキストの該当箇所を読む

第7回		
第8回	実習記録の方法	テキストの該当箇所を読む
第9回	介護技術・実習生のマナー	テキストの該当箇所を読む
第10回	事前学習報告会	発表資料を作成し、発表の準備をする
第11回	実習の振り返り(1)	テキストの該当箇所を読む
第12回	実習の振り返り(2)	実習の振り返りワークシートを作成する
第13回	実習報告書の作成	実習報告書を作成する
第14回	実習報告会	発表資料を作成し、発表の準備をする
第15回	3年生実習報告会への参加	テキストの該当箇所を読む
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:02

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:03

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画			準備学習
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)		これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)		前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:06

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:24

授業科目名	食と健康 (Q4)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、地域創生学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%, 課題レポート30%, 小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
	生体内酸化ストレス 取り上げる内容について関連情報についてネットや書

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:07

授業科目名	博物館概論		
担当教員氏名	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、収集、保存、学習支援、法規		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	博物館学芸員資格取得のための必修科目。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポート(20%)と期末試験(80%)によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	オノユウリ『美術館で働くということ』KADOKAWA/メディアファクトリー、倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院、木下史青『博物館へ行こう』岩波書店		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	学芸員資格を取得するための入口に当たる授業です。博物館について学ぶためには、まず博物館に行かなければ何も学べません。キャンパスメンバーズ制度を利用して、多くの博物館・美術館・資料館に行ってみてください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、公立博物館の開設・運営に関する実務経験を持つ教員が、博物館に関する基礎的な知識と、その専門職員である学芸員に求められる理論を実践的な事例にもとづいて指導する。		

授業計画	準備学習
第1回	博物館学芸員とは 博物館において学芸員はどのような仕事をしているのかを考えてみる。
第2回	博物館の歴史 現在のような博物館は、どのようにして形成されてきたのか、その歴史を考えてみる。
第3回	博物館の定義と種類 動物園や水族館も博物館に含まれる。なぜだろう。どのような共通点があるのか。考えをまとめておく。
第4回	博物館の目的と機能 博物館は何のために存在しているの、どのような役割を担っているのか、考えをまとめておく。
第5回	博物館の組織と職員 博物館を機能させるためにはそのような運営組織が必要か、考えをまとめておく。
第6回	博物館資料とその収集 魅力的な博物館のコレクションを形成するにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第7回	博物館資料の情報化 博物館と情報処理、どのような関係があるのか考えておく。
第8回	展示 自分の行ったことのある博物館でどのような展示が行われていたかを思い出してみる。
第9回	資料の保存 博物館資料はなぜ劣化するのか？それを防ぐためにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第10回	資料の取り扱い 博物館資料の取り扱いに際してどのような点に注意すべきか、考えをまとめておく。
第11回	学校教育と博物館 博物館は学校教育にどのような貢献ができるのか？考えをまとめておく。

第12回	生涯学習と博物館	教育と学習の違いについて考えをまとめておく。
第13回	地域社会とのコミュニケーション	博物館とそれが所在する地域とがどのような関係をもっているのか、考えをまとめておく。
第14回	博物館関連法規	博物館に関連する法律が果たす役割について考えておく。
第15回	空想展覧会	これまでの学習を踏まえ、自分が学芸員であったらどのような展覧会を企画・運営するのかをまとめておく。
第16回		
授業計画	博物館はなぜ存在するのか、そこではどのような事業が展開され、専門職員である学芸員はどのような役割を果たすのかを、新聞記事なども取り上げながら具体的に考察する。最終回の事業では、各自の学習成果を踏まえて、自分ならどのような展覧会や行事を企画するかを「空想展覧会」としてプレゼンテーションする。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:02

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:03

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画			準備学習
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)		これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)		前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己		前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:06

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:24

授業科目名	食と健康 (Q4)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、地域創生学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
生体内酸化ストレス	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:28

授業科目名	解剖学・病理学 I (Q3)		
担当教員氏名	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426 研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	月・木の午後		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。教科書または配布資料に沿って、講義形式で実施する。必要に応じてスライドを用いる。毎回、小テストを行う。授業の最後に提出すると出席としてカウントされる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必須
履修要件	健康科学科 1 年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	医学、医療、医の倫理、健康、病気の内因外因、炎症、腫瘍、診断学、剖検		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目の目標は人体の構造や機能を解剖学と病理学を通して、系統的に理解することである。</p> <p>医学には、自然科学としての医学(基礎医学、臨床医学、予防医学と保健学、環境医学、産業医学、医療情報学)、社会科学としての医学(医療システム、福祉医療、医療経済学)があり、その特徴を理解する。医療においては、医師、看護師、コメディカルのチーム医療により質の高い医療行為がおこなわれ、さらに健康教育も実践し、予防におい手も重要な役割を演じていることを学ぶ。また医学の進歩と病気の成り立ちを理解する。本科目は、専門教育科目の関連科目に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>授業内容は医学概論と解剖学、病理学概論の三つから構成される。</p> <p>①医学概論:「医学とは何か」「それがどのような方向に発展しつつあるか」という医学の本質について、医学の歴史も学びながら理解・考察する。医学には、自然科学としての医学、社会科学としての医学があり、その特徴を理解する。</p> <p>②解剖学を通して、人体の構造や機能について理解を深める。具体的には、消化器系、循環器系、腎・尿路系、内分泌系、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖器系、血液・リンパ・凝固系、の機能と構造を理解する。</p> <p>③病理学を通して、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解する。</p>		
成績評価の方法	成績は、期末試験、課題レポートで評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学」 羊土社		
参考文献	なるほどなっとく病理学 南山堂		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	医学の基礎である解剖学の講義を行う。本講義の内容を理解していないと、解剖学や臨床医学の講義内容が理解できない。教科書に沿って講義をするので、事前に教科書を読んでおくこと。		

授業計画	準備学習
第1回	医学概論 プリント配布
第2回	細胞と組織 教科書「解剖生理学」 29-44
第3回	消化器系・血液系 教科書「解剖生理学」 45-84
第4回	循環器系・呼吸器系 中間試験 教科書「解剖生理学」 85-120
第5回	腎・尿路系・生殖器系 教科書「解剖生理学」 121-141
第6回	骨格系・筋肉系 教科書「解剖生理学」 142-166
第7回	内分泌系・神経系 教科書「解剖生理学」 167-207
第8回	期末試験
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:02

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:03

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、進路選択、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。	
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。	

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:06

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:24

授業科目名	食と健康 (Q4)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、地域創生学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%, 課題レポート30%, 小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
	生体内酸化ストレス 取り上げる内容について関連情報についてネットや書

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:31

授業科目名	技術マネジメント論		
担当教員氏名	魚谷 滋己		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式で進めるが、適宜、全4回の宿題(レポート提出)を課し、次回の講義の開始時に提出。レポート内容と実際の企業での実践例を基にした討議を適宜実施する。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、討議に参画することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	MOT,製品開発マネジメント、製品戦略、製品戦略策定プロセス、製品開発、製品開発プロセス、製品開発組織		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、技術経営(MOT)の基本的な概念・考え方を修得し、技術経営において基本的に抑えるべき視点を理解する事を目標とする。		
授業の内容	「製品開発」は企業競争力の源泉である。一方で、失敗するとリスクは甚大となる。そのマネジメントは企業経営そのものと言っても過言ではない。製品開発の上位にある製品戦略も含め技術経営の構成要素について、その基本的内容を解説し、自動車製造企業の実例を紹介しながら、企業の存続～成長には何が必要かを、受講生を中心とした討議を通して考察する。更に、仕上げとして、実際の企業見学を通じて、考察した内容につき技術経営の視点から受講生自ら確認する。		
成績評価の方法	授業期間を通して、適宜、合計4回のレポート提出を課す。また、講義の節目に5回程度、集中討議を実施する。評価は、レポート内容(70%)と、討議への参画度合・討議内容・積極性(30%)とで総合評価する。		
テキスト			
参考文献	延岡健太郎「製品開発の知識」日経文庫 日本経済新聞出版社 延岡健太郎「MOT[技術経営]入門」日本経済新聞出版社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業内容の理解のため事前に参考文献(特に「製品開発の知識」日経文庫)を一読する事を推奨する。 企業見学の日程等については変更する事があります。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 広島所在の自動車製造企業に長年勤務した教員が、その実務経験を活かして、自動車業界を中心とした日本の製造業の製品・技術開発の戦略～マネジメントの実態、最近の課題について講義する。		

授業計画	準備学習
第1回 イントロダクション(講義の目的と考え方・講義の構成と流れ) 製品開発マネジメント	「製品開発の知識」第I章の事前購読
第2回 製品開発マネジメント～製品戦略	「製品開発の知識」第III章の事前購読
第3回 製品戦略	第2回に課したアサインメント提出 (製品戦略についての考察)
第4回 製品戦略(企業での事例紹介と討議)	事前準備不要
第5回 製品アーキテクチャー	事前準備不要
第6回 製品開発プロセス	第5回に課したアサインメント提出 「製品開発の知識」第IV章の事前購読
第7回 製品開発組織のデザイン	「製品開発の知識」第V章の事前購読
第8回 製品開発プロセス～組織(企業での事例紹介と討議)	事前準備不要
第9回 製品開発プロセスのマネジメント	「製品開発の知識」第VI章の事前購読
第10回 自動車の商品開発事例とMOT	事前準備不要
第11回 講義全体のまとめ。企業見学についての説明。	「製品開発の知識」第VII～VIII章の事前購読
第12回 企業見学	事前準備不要
第13回 企業見学	事前準備不要
第14回 企業見学	事前準備不要

第15回	まとめと総合討議	第11回～14回の企業見学でのアサインメント提出 (企業見学を終えての考察)
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:02

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)		チームで活動する際に必要な要素について考えておく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)		然会の資料を読み、振り返りしておく。また、強み診断の課題に取り組む。
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成		「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを読んでおく。
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング		前回の資料を読み、振り返りしておく。
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証		前回の資料を読み、課題に取り組む。
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成		前回の資料を読み、課題に取り組む。
	グローバルビジネスと商品企画(7)		

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表) 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ 	前回の資料を読み, 課題に取り組む。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:03

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、進路選択、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。	
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。	

第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:06

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向うて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:24

授業科目名	食と健康 (Q4)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、地域創生学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%, 課題レポート30%, 小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
	生体内酸化ストレス 取り上げる内容について関連情報についてネットや書

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:38

授業科目名	視覚情報処理論		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
連絡先電話番号	電話:082-251-9731(直通)		
オフィスアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可), 場所は担当教員研究室		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主に下記の教科書・参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(情報)選択		
キーワード	視覚情報処理, デジタル画像, 画像処理, 静止画, 動画, 3原色原理, カラー画像, 画像圧縮, Biometrics, 顔画像の処理, Matlab Programming		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は, 情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて, 情報科学の重要な分野として, 視覚情報処理・画像処理の基礎, 特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに, 演習を通して画像処理の基本技法を体験する。		
授業の内容	視覚情報は, 人間が処理・利用する最も大事な情報の一つである。その形成, 処理, 応用に関する研究開発が近年大きく進展し, 特に知能的マンマシンインタフェースにおいては極めて重要なものである。本講義では, まず生物の視覚情報処理の基礎を紹介し, 画像による視覚情報処理モデルについて述べる。次に, デジタル画像の形成と処理の基本技法を詳述する。最後に, デジタル画像処理の最新応用として, 近年注目されている顔識別(Biometrics)による個人認証セキュリテイ技術について述べる。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験は60%, 演習への取り組みは40%の割合で, 出席状況も考慮して, 総合的に評価する。各課題の提出期限は, 通常, 次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特に指定しないが, 授業中にプリントをまめに配布する。		
参考文献	参考書: 酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社, 1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館, 1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂, 2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社, 2002。谷口『画像処理工学』共立出版, 1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店, 1997。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 大学教員になる前にIT業界で情報システムの開発に従事していた。特にコンピュータ配電自動化システムの開発プロジェクトに参加し, 機能設計, プログラム設計, 試験設計等に加え, プログラム作成や現地試験にも参加した。教員になってからも幾度も企業との共同研究開発を長年にわたって行った。そういった実務経験を授業に活かすためには, 画像処理理論のみならずその実用における活用現状, あり方, 利用拡大の可能性等についても言及し, 多くの実例や例題を通して学生の興味や自ら考える・学ぶ姿勢を引き出しながら授業内容への理解の深化を図ることになっている。		

授業計画	準備学習
第1回	①授業計画の説明, ②序論: 人と計算機はどう違うか? なぜ人の情報処理を解明する必要があるか?
第2回	脳における情報処理: ①大脳皮質における情報処理, ②神経細胞の構造・機能, ③神経インパルスの発生と伝達
第3回	①視覚情報処理の流れ, ②網膜における情報処理, ③受光細胞, ④双極細胞, ⑤神経細胞, ⑥V1野における初期視覚情報処理, ⑥V2, V4, MT, MSTでの情報処理
第4回	①デジタル画像処理の歴史, ②デジタル画像処理の応用分野, ③デジタル画像処理の基本課題
第5回	デジタル画像の基礎(1): ①デジタル画像の生成(空間サンプリング, 量子化), ②画像の空間解像度, ③輝度分解能
第6回	デジタル画像の基礎(2): ①色彩の基本, ②3原色原理, ③カラー画像
第7回	画像の基本処理(1): ①画像の拡大・縮小, ②画像の回転, ③画像の濃度変換
第8回	画像の基本処理(2): ①空間フィルタリング手法, ②平滑

	化フィルタ、③特徴抽出フィルタ、④鮮鋭化フィルタ	
第9回	静止画の圧縮：①情報保存型圧縮(Huffman coding, ARによるPredictive coding)、②情報非保存型圧縮(直交変換2-D DCTなどを用いた圧縮、ベクトル量子化による圧縮(Vector quantization (VQ)))	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第10回	動画の圧縮：動きベクトルの検出(Motion estimation)による圧縮	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第11回	画像処理演習(Matlab使用)準備：①Matlabのコマンド、②Matlabプログラム形式、③Matlabでの画像読み込みと書き込み	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第12回	画像処理演習(1)：デジタル画像の拡大・縮小(プログラム作成と処理画像による確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第13回	画像処理演習(2)：デジタル画像のフィルタリング(エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第14回	画像処理演習(3)：静止画の圧縮(2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第15回	①(時間があれば)顔画像による個人識別の技術、②授業統括(予備日)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第16回	期末試験	講義内容を復習し、試験に備えること
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:39

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	オンライン対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習10%、レポート課題40%、期末レポート50%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、3地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国)のいずれでも良いので、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション 目的と概要説明 「マツダ(株)の紹介」		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)	チームで活動する際に必要な要素について考えておく。	
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)	前回の資料を読み、振り返りをしておく。また、強み診断の課題に取り組む。	
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・講義「将来変化の紹介」 ・講義「海外主要市場の概要」 ・チーム編成	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(海外主要市場の概要)を読んでおく。	
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・講義「海外主要市場の概要」	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・実習「将来変化シナリオの作成」 -10年後を見据えた変化・進化(米国・欧州・中国) -働き方・暮らし方・クルマ文化	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・将来変化シナリオ発表 -数チームによる発表と講師コメント	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・講義「商品企画の基礎」 -商品企画の定義と概要 ・実習「ブレインストーミング」	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(商品企画の基礎)を読んでおく。	

	・成果発表	
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・講義「シナリオライティング」 ・各チーム担当市場決定 ・実習「コンセプトシナリオの作成」 - 中間発表用シナリオ案作成	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・実習「コンセプトシナリオの作成」(Cont.) - 中間発表用シナリオ最終化	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・中間発表 - 全チームのコンセプトシナリオ発表と講師講評 ・講義「モノ作り発想の限界」 ・講義「プレゼンテーション」 ・ガントチャートを使った計画立案	中間発表に向けて、チームで発表資料を完成させる。
第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・実習「最終プレゼンテーションの準備」 - プレゼンテーション資料作成 - プレゼンテーション原稿作成 - 想定質問への回答準備	中間発表での講師コメントを踏まえ、最終プレゼンテーション資料作成方針を決め、資料作成に取り組む。
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・実習「Distributor Meeting(前半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・実習「Distributor Meeting(後半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価 ・優秀チーム表彰と講師講評 ・講義「総まとめ」	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。(後半チーム)
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:42

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科、環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:43

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (庄原キャンパス主担当 藤井宣彰)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:44

授業科目名	食と健康 Q3		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、生物資源科学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学的思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
	生体内酸化ストレス 取り上げる内容について関連情報についてネットや書

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:45

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員, 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業およびアクティブラーニング形式。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある大学の教員, または, 関連する地域専門家, 行政担当者等による講義。さらに, 地域に関連したテーマでグループによる調査, レポートを課す予定である。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	地域資源開発学科, 生命環境学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の自然, 文化, 環境保全, 産業についての概要を説明できる。</p> <p>2.地域の課題について, その解決に向けて主体的に取組み, 地域の理解を図り, 自らの得た知識や課題について必要な技法(文献探索, 調査法, データ分析, PCによるプレゼンやレポート作成)を用いて説明ができる。</p> <p>カリキュラムとの関連は, 専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び, 実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は, 大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化, 食品, 環境保全に関する実践的な取り組みについて, 専門の本校教員および外部講師による講義を行う。なお, 外部講師の都合により, 日程および内容については変更の可能性がある。後半は, グループ毎に実際のフィールドに出て必要な技法をもちいて情報収集, 分析し, その結果をプレゼン等により発表する。		
成績評価の方法	原則として前半1-7回目の講義に関しては, 毎回簡単なレポートを講義時間内(20~30分程度)に作成し講義終了時に提出する(60%)。後半8-14回目のフィールド実践実習に関しては, 調査およびグループワークの内容に関するレポートおよびプレゼンテーションで学修の達成度を確認する(40%)。		
テキスト	教科書は定めない。講師によってはプリント資料を配付する。参考文献等は, 随時, 紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよび一部レポート提出をWeb上で行う場合があるため, 配信されるメール連絡は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している大学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に関連している専門家やその場所をグループで訪問調査し, プレゼンテーションを行うことで課題内容の理解を深める。これにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス(フィールド科学教育研究センター長) 庄原市 全体について(外部講師1) R2.9.30 1限	シラバス, コースカタログを熟読し, どのような科目なのかを理解して初回に臨むこと。	
第2回	庄原市 行政について(外部講師2) R2.9.30 2限	ホームページで, 庄原市についてみておくこと。	
第3回	庄原市の産業に関する内容(外部講師3) R2.10.7 1限	庄原市の産業に関わること(商工会議所, 他), インターネットなどで調べてくること。	
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介(外部講師4) R2.10.7 2限	産官学連携やスマート農業, 6次産業等について調べてくること。	

第5回	広島県の試験研究機関に関する内容(外部講師5) R2.10.14 1限	広島県の試験研究機関について調べてくること。
第6回	庄原(備北地域)の観光や自然環境に関する内容(外部講師6) R2.10.14 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原(備北地域)に関する内容。フィールド実践実習(グループワーク説明) R2.10.21 1限	これまでの講義を参考に庄原(備北地域)について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.21 2限	割り当てられた課題について調べてくること。
第9回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 1限	訪問先について調べてくること。
第10回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 2限	訪問先について調べてくること。
第11回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 1限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第12回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 2限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第13回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 1限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第14回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 2限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第15回	フィールド科学の総まとめ R2.11.18	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、以降の関連する実習や研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、また日程については年度途中で確定することになるので、上記の授業計画については変更となる場合がある。 詳細は1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:39

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	オンライン対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習10%、レポート課題40%、期末レポート50%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、3地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国)のいずれでも良いので、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション 目的と概要説明 「マツダ(株)の紹介」		
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)	チームで活動する際に必要な要素について考えておく。	
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)	前回の資料を読み、振り返りをしておく。また、強み診断の課題に取り組む。	
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・講義「将来変化の紹介」 ・講義「海外主要市場の概要」 ・チーム編成	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(海外主要市場の概要)を読んでおく。	
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・講義「海外主要市場の概要」	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・実習「将来変化シナリオの作成」 -10年後を見据えた変化・進化(米国・欧州・中国) -働き方・暮らし方・クルマ文化	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・将来変化シナリオ発表 -数チームによる発表と講師コメント	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・講義「商品企画の基礎」 -商品企画の定義と概要 ・実習「ブレインストーミング」	テキスト「グローバルビジネスと商品企画」(商品企画の基礎)を読んでおく。	

	・成果発表	
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・講義「シナリオライティング」 ・各チーム担当市場決定 ・実習「コンセプトシナリオの作成」 - 中間発表用シナリオ案作成	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・実習「コンセプトシナリオの作成」(Cont.) - 中間発表用シナリオ最終化	前回の資料を読み、課題に取り組む。
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・中間発表 - 全チームのコンセプトシナリオ発表と講師講評 ・講義「モノ作り発想の限界」 ・講義「プレゼンテーション」 ・ガントチャートを使った計画立案	中間発表に向けて、チームで発表資料を完成させる。
第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・実習「最終プレゼンテーションの準備」 - プレゼンテーション資料作成 - プレゼンテーション原稿作成 - 想定質問への回答準備	中間発表での講師コメントを踏まえ、最終プレゼンテーション資料作成方針を決め、資料作成に取り組む。
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・実習「Distributor Meeting(前半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・実習「Distributor Meeting(後半)」 - 各チームプレゼンテーション - 質疑応答 - 全受講生による評価 ・優秀チーム表彰と講師講評 ・講義「総まとめ」	前回までの全ての情報を参考にして、最終プレゼンテーション資料作成に取り組む。(後半チーム)
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:42

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科、環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:43

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (庄原キャンパス主担当 藤井宣彰)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:44

授業科目名	食と健康 Q3		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、生物資源科学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学的思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部(2020) 食と健康(別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳(2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画	準備学習
第1回 食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回 食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回 食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回 味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回 食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回 調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回 食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回 機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
	生体内酸化ストレス 取り上げる内容について関連情報についてネットや書

第9回	生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:45

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員, 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業およびアクティブラーニング形式。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある大学の教員, または, 関連する地域専門家, 行政担当者等による講義。さらに, 地域に関連したテーマでグループによる調査, レポートを課す予定である。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	地域資源開発学科, 生命環境学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の自然, 文化, 環境保全, 産業についての概要を説明できる。</p> <p>2.地域の課題について, その解決に向けて主体的に取組み, 地域の理解を図り, 自らの得た知識や課題について必要な技法(文献探索, 調査法, データ分析, PCによるプレゼンやレポート作成)を用いて説明ができる。</p> <p>カリキュラムとの関連は, 専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び, 実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は, 大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化, 食品, 環境保全に関する実践的な取り組みについて, 専門の本校教員および外部講師による講義を行う。なお, 外部講師の都合により, 日程および内容については変更の可能性がある。後半は, グループ毎に実際のフィールドに出て必要な技法をもちいて情報収集, 分析し, その結果をプレゼン等により発表する。		
成績評価の方法	原則として前半1-7回目の講義に関しては, 毎回簡単なレポートを講義時間内(20~30分程度)に作成し講義終了時に提出する(60%)。後半8-14回目のフィールド実践実習に関しては, 調査およびグループワークの内容に関するレポートおよびプレゼンテーションで学修の達成度を確認する(40%)。		
テキスト	教科書は定めない。講師によってはプリント資料を配付する。参考文献等は, 随時, 紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよび一部レポート提出をWeb上で行う場合があるため, 配信されるメール連絡は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している大学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に関連している専門家やその場所をグループで訪問調査し, プレゼンテーションを行うことで課題内容の理解を深める。これにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス(フィールド科学教育研究センター長) 庄原市 全体について(外部講師1) R2.9.30 1限	シラバス, コースカタログを熟読し, どういう科目なのかを理解して初回に臨むこと。	
第2回	庄原市 行政について(外部講師2) R2.9.30 2限	ホームページで, 庄原市についてみておくこと。	
第3回	庄原市の産業に関する内容(外部講師3) R2.10.7 1限	庄原市の産業に関わること(商工会議所, 他), インターネットなどで調べてくること。	
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介(外部講師4) R2.10.7 2限	産官学連携やスマート農業, 6次産業等について調べてくること。	

第5回	広島県の試験研究機関に関する内容(外部講師5) R2.10.14 1限	広島県の試験研究機関について調べてくること。
第6回	庄原(備北地域)の観光や自然環境に関する内容(外部講師6) R2.10.14 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原(備北地域)に関する内容。フィールド実践実習(グループワーク説明) R2.10.21 1限	これまでの講義を参考に庄原(備北地域)について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.21 2限	割り当てられた課題について調べてくること。
第9回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 1限	訪問先について調べてくること。
第10回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.10.28 2限	訪問先について調べてくること。
第11回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 1限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第12回	フィールド実践実習(グループワーク) R2.11.4 2限	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第13回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 1限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第14回	フィールド実践実習(プレゼン発表) R2.11.11 2限	各班プレゼン内容を整理しておく。
第15回	フィールド科学の総まとめ R2.11.18	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、以降の関連する実習や研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、また日程については年度途中で確定することになるので、上記の授業計画については変更となる場合がある。 詳細は1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けたマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回 ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回 心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回 ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回 「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回 レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回 環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴァイバッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:49

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:50

授業科目名	食と健康 Q4		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、保健福祉学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房 稲山 貴代, 大森 玲子 編, 小川 聖子 著 (2017) 食と健康の科学 建帛社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画		準備学習
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:51

授業科目名	基礎看護実習Ⅱ		
担当教員氏名	青井 聡美, 吉田 和美, 池田 ひろみ, 三宅 由希子, 辻川 季巳栄 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護, 看護過程, アセスメント(情報収集, 客観的情報, 主観的情報, 分析・解釈, 看護の必要性または看護上の問題), 計画立案(長期目標, 短期目標, 観察計画, 援助計画, 指導計画), 実施, 評価, 日常生活援助方法, 診療に伴う看護方法, 看護記録		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康障がいによって引き起こされる患者の反応を理解し、患者に必要な日常生活に関する看護援助を看護過程に沿って実施、評価することを学修する。成人看護学, 老年看護学, 小児看護学, 母性看護学, 地域看護学, 精神看護学の全ての看護活動の基盤となる授業と位置づけている。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康障がいをもつ患者の気持ちに寄り添い、援助的人間関係を築くよう関わるができる。 2.健康障がいをもつ患者の全体像を理解し、看護上の問題を明確にできる。 3.健康障がいをもつ患者の看護上の問題の解決に向けて看護計画を立案し、実施・評価できる。 4.看護計画に基づき、患者の状態に応じた看護援助を実践できる。 5.受持ち患者に実施した援助を情報共有し、看護チームの一員として協働できる。 6.受持ち患者の人格を尊重し、責任ある行動がとれる。 7.看護専門職として学修し続け成長していくために適切な姿勢・態度で行動できる。 		
成績評価の方法	目標への到達度(90%), レポート(10%)とする。		
テキスト	臨地実習要綱、基礎看護実習Ⅱ実習要綱		
参考文献			
備考(履修上のアドバース・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師経験のある教員が臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。 看護学概論, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論, ヘルスアセスメント, 看護理論と実践, 慢性期看護論, 急性期看護論で学習した内容を復習して実習に臨むこと。また, 実習日数が不足した場合は記録提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。		
授業計画	準備学習		
第1回	第1回オリエンテーション 臨地実習要綱, 基礎看護実習Ⅱ実習要綱にそって説明をする。	令和元年度入学生用 臨地実習要綱、令和2年度基礎看護実習Ⅱ実習要綱を持参すること	
第2回	バイタルサインチェック 日常生活援助技術練習	バイタルサインの測定方法について復習をして臨むこと。基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること	
第3回	日常生活援助技術練習	ヘルスアセスメントについて復習をして臨むこと。基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること	
第4回	第2回オリエンテーション 1.実習病院、病棟の説明 2.受持ち患者の紹介および情報提供 3.実技練習:検温の仕方と観察の仕方、報告の仕方 4.受持ち患者に必要なかつ関連する知識・技術の自己学習	基礎看護実習要綱を熟読し臨むこと。バイタルサインの計測方法について復習をして臨むこと。	
第5回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第6回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第7回	情報収集した内容を整理、アセスメントし、看護診断を導く。 看護診断毎に看護計画を立案する。	日常生活行動の情報を整理し臨むこと	
第8回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第9回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	
第10回	病院実習	行動計画を立案し臨むこと	

第11回	病院実習での学びを基礎看護実習Ⅱの目標に向けて振り返る。	実習ノートを完成させ臨むこと
第12回	学内まとめ	実習ノートを完成させ臨むこと
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	基礎看護実習Ⅱ実習要綱参照	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けたマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴァイバッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:49

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)～9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:50

授業科目名	食と健康 Q4		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、保健福祉学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房 稲山 貴代, 大森 玲子 編, 小川 聖子 著 (2017) 食と健康の科学 建帛社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画		準備学習
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:52

授業科目名	基礎臨床実習 I		
担当教員氏名	梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 佐藤勇太, 高宮尚美		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	面談はともに要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		
授業の内容	実習施設にて2週間, 実習指導者の下で実習をする。 以下の内容を実習目標とする。 1)実習施設の概要を理解する。2)他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3)処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4)情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5)実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)		
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けたマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴァイバッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:49

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:50

授業科目名	食と健康 Q4		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、保健福祉学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房 稲山 貴代, 大森 玲子 編, 小川 聖子 著 (2017) 食と健康の科学 建帛社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画		準備学習
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:53

授業科目名	総合臨床実習 I (作業)		
担当教員氏名	小池好久, 吉岡和哉, 久野真矢, 織田靖史, 西田征治, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 坂本千晶, 池内克馬		
研究室の場所	小池:2506研究室, 吉岡:2508研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨床実習施設における実習。作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う。実習終了後、学内において事例報告書作成および発表。		
単位数(時間数)	9.0	405	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 診療(作業療法)参加型実習, 作業療法評価, 作業療法計画立案, 作業療法介入, 事例報告		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目的】 総合臨床実習では、評価により収集した情報から適切な作業療法計画を立案し、実施した結果を再評価によって確認するという作業療法過程を経験し、クライアントを中心としたチームアプローチの中で作業療法士の役割を理解することを目的とする。</p> <p>【一般目標】 臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈するクライアントに対して、以下のことができるようになることを一般目標とする。 1. 作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 2. 許容される臨床技能を実践できる。 3. 臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程(クリニカルリーズニング)を説明し、作業療法の計画立案ができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の臨床実習指導者のもとで診療(作業療法)参加型実習形態に基づいて実践的教育を行う。また、科目担当教員も作業療法士としての実務経験が5年以上であり、臨床実習指導者と連携する。実習終了後は事例報告書作成および発表に関して実践的教育を行う。</p>		
授業の内容	医療機関等に身を置き、診療(作業療法)参加型実習に基づいた臨床実習指導者の指導のもとでクライアントに接し、学内で学んだ作業療法理論に関する知識と技能および態度を身につける。実習終了後、学内において事例報告書を作成し、実習セミナーにおいて発表する。		
成績評価の方法	総合臨床実習報告書, 臨床実習録(デイリーノート), 事例報告書(または経験報告書), 自己学習ポートフォリオ, 実習セミナーにおける出席・報告, その他の提出課題に対して総合的に評価する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・県立広島大学保健福祉学部作業療法学科:総合臨床実習の手引き。2020。 ・吉川ひろみ, 齋藤さわ子:作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院, 2014。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本作業療法士協会:作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018)。 		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要です。</p> <p>実習中は守秘義務を遵守してください。また、自己の健康管理に十分に配慮することも必要となります。</p> <p>何かあった場合には、施設担当教員または科目担当教員に連絡を取ってください。</p> <p>※実習の専門領域は1期2期で合わせて検討し配置決めをしている。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	実習ガイダンス(学内)	3年次までに学習した専門基礎科目, 専門科目の復習を行っておくこと。	
第2回	第1週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと。	
第3回	第2週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと。	
第4回	第3週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことを	

	ぶ(学外:臨床実習施設)	デイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第5回	第4週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第6回	第5週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第7回	第6週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第8回	第7週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第9回	第8週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第10回	第9週: 作業療法過程を診療(作業療法)参加型実習により学ぶ(学外:臨床実習施設)	実習を通して経験したこと, 学んだこと, 調べたことをデイリーノート, ポートフォリオとして作成していくこと.
第11回	施設担当教員の指導のもと事例報告書(レジュメ)を作成する(学内)	実習を通して経過を追うことができた事例を選択し, デイリーノート, ポートフォリオから事例の情報をまとめておくこと. また, 実習の手引きに掲載されている事例報告書作成指針やサンプルを読んでおくこと.
第12回	パワーポイント使用・口述発表による事例報告を行う(学内:実習後セミナー)	事例発表に関する規定を順守してパワーポイントや口述発表の準備を行っていくこと.
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	臨床実習施設における実施期間:9週間 ※実習前のオリエンテーションやガイダンス, 実習後のセミナー発表等は, 本科目に含まれる内容であるので, 必ず出席すること. ※実習期間中は, 実習施設の勤務体系に合わせた臨床実習を行う.	
シラバス備考		
URLリンク1	日本作業療法士協会: 作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018) < http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2013/12/shishin-tebiki20181.pdf >	
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けてマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:49

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:50

授業科目名	食と健康 Q4		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、保健福祉学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房 稲山 貴代, 大森 玲子 編, 小川 聖子 著 (2017) 食と健康の科学 建帛社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画		準備学習
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:55

授業科目名	臨床実習Ⅲ		
担当教員氏名	城本 修 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	4.0	160	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、コミュニケーション障害に対する臨床の実際の流れを学ぶ。すなわち、特定の実習協力患者を一定期間担当し、そのコミュニケーション障害の評価・診断、指導目標の設定、訓練計画の立案と日々の指導プログラムの実施と改良、指導記録の作成といった一連の作業、さらに関連職種との連携やチーム・アプローチの実際を通して、言語聴覚士としての具体的な臨床業務を学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が担当中のケースを対象とした臨床実習(見学、検査、評価、訓練計画立案、訓練実施)を計画し、言語聴覚療法の実際について学修する。		
授業計画	準備学習		
第1回	事前に開催する臨床実習オリエンテーションにおいて、実習に対する心構え、見学に必要な機器の操作方法、準備学修内容について説明する。		
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
	臨床実習に関する資料を配布し、講義および演習によるオリエンテーションを行ったうえで、学内実習、学外実習を		

授業計画	実施する。コミュニケーション障害学科「臨床実習の手引き」参照。 準備学習については、各実習指導者の指示を仰ぐこと。
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない(事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること)。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講カードに要約を記すことを求める。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けたマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習(呼吸を整える)	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習(微細な動きを意識する)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習(ブリージング・エクササイズ)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第4回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは ・実習(アイソメトリック運動)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第5回	「好き・嫌い」の対立する感情を克服する ・『人間万事塞翁が馬』から学ぶこと ・実習(アイソメトリック運動、呼吸の意識化)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第6回	レジリエンス ・困難を乗り越えるためには ・実習(呼吸の意識化、セクショナルブリージング)	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第7回	環境調整の方法 ・安全で安心な環境とは	前回の資料を読み、振り返りしておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を行動によって変える ・実習(呼吸法) 	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 不安に対処する ・不安にとりつかない ・“いま, ここ”に意識を向ける ・実習(瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 瞑想法 ・実習(有音の呼吸) ・実習(リラクゼーション反応) ・実習(ヴィパッサナー瞑想) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 執着・こだわりから心を解放する ・執着・こだわりを理解する ・実習(呼吸法, 瞑想法) 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(1) ・好き・嫌いとらわれることなく義務・役割を果たす ・著名人の言葉から学ぶ 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(2) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とストレス(3) ・学内の教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート 	講話に関するレポートを作成する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ ・実習(アイソメトリック運動, 呼吸法, 瞑想法) ・レポート提出 ・授業評価アンケート 	前回の資料を読み, 振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:47

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。 (履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。 		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		

第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第3回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じ第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:49

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 五條小枝子他 (三原キャンパス主担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 前期集中講義(4日間。2020年8月31日(月)~9月3日(木)の予定) サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:50

授業科目名	食と健康 Q4		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し、保健福祉学部分野に必要な知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実に目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら、食の栄養・生理機能について興味・関心を高め、食の役割を理解し、化学的、生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には、食の健康維持機能、疾病との関連、疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステューブ・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房 稲山 貴代, 大森 玲子 編, 小川 聖子 著 (2017) 食と健康の科学 建帛社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、食品成分を定量分析する方法を取り上げる(第7回)。		

授業計画		準備学習
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。

第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病(糖尿病)予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(動脈硬化)と食生活 動脈硬化性疾患と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題について説明する。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2020/05/25(月)16:55

授業科目名	社会福祉実習 I		
担当教員氏名	李 宣英、伊藤 泰三、國定 美香、志賀 信夫、住居 広士、田中 聡子、手島 洋、永野 なおみ、松宮 透高、湯川 順子、横須賀 俊司、吉田 倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員に確認のこと		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象 社会福祉実習指導Ⅱにおいて実施される中間試験に合格すること。		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、配属実習、相談援助		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	①相談援助に係る知識と技術について具体的・实际的に理解し、実践的な技術等を体得すること、②社会福祉士として求められる資質・技能・倫理や、自己に求められる課題把握等を総合的に対応できる能力を習得すること、③関連分野の専門職との連携について実践的に理解すること、の以上3点を目標とする。 カリキュラム上の位置け: 専門領域特有の科目(社会福祉士専門科目群)		
授業の内容	社会福祉実習施設において、60時間以上の配属実習を行う。社会福祉実習を通して、実習日誌(記録)を作成、実習課題の達成度を測る自己評価を行なう。また、実習指導者および実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導を以下に記す: ①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成、②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について、③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価、④支援におけるチームアプローチの実際、⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解、⑥施設・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、⑦当該実習先が地域社会の中の施設であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけの方法、社会資源の活用・調整・開発に関する理解		
成績評価の方法	実習指導者による評価、学生の自己評価、実習担当教員による評価に基づき総合的に判断する		
テキスト	相談援助実習研究会編「はじめての相談援助実習」ミネルヴァ書房 「県立広島大学 社会福祉実習の手引」		
参考文献	グループごとに、担当教員より紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 社会福祉士に必要な能力を身に付けるため、社会福祉の実践現場において、実習指導者の指導の下、支援の実際を経験する。実習指導者は、社会福祉士の資格取得後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者であって、厚生労働大臣が別に定める基準を満たす講習会の課程を修了したものである。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	<p>社会福祉実習を通して、実習日誌を作成し、実習課題の達成度を測る自己評価を行う。また、実習指導者及び実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導は以下のとおり。①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成。②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について。③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価。④支援におけるチームアプローチの実際。⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解。⑥施設・事業者・団体等の経営やサービスの運営管理、⑦当該実習先が地域社会の中の施設であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけの方法、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>	
シラバス備考	<p>実習期間中に、おおよそ1週間に1度教員による巡回指導,または帰校指導を実施する。</p>	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		